

## 論文

## 京都府老舗企業調査の研究

長 島 修\*

## 要旨

京都府は、1968、85、86 年の 3 回、創業 100 年を経過した企業を表彰するため  
に調査をおこなった。3 回の調査の仕方に若干の相違はあるが、ほぼ同じ基準を設  
けて、それに基づいて老舗企業を重複なく抽出し、調査員を派遣して各企業を調  
査した。この 3 つの調査を統合した結果によれば、創業年でみると、文化元年～  
慶應 4 年までの幕末期が多くなっていた。明治期創業企業は、調査の範囲では 19  
年間と短い期間であるが、相当数にのぼっていた。老舗企業は、規模としては従  
業員数 10 人未満の小規模企業が圧倒的であった。企業規模が拡大にするにつれて、  
老舗企業に特化する傾向がみられた。地区別に老舗企業の分布をとってみると、  
京都市の中心地である上京区、中京区、下京区は出現率も高く、多くの老舗企業  
はこの狭い市中に集中している傾向を持っていたのである。老舗企業は、A1 伝統  
的商品・地域市場型企业、A2 伝統的商品・全国市場型企业、B2 近代的商品・全  
国市場型企业 3 つタイプに分類することができる。老舗企業は規模の小さい A1 伝  
統的商品・地域市場型企业がもっとも多く、規模の大きい B2 近代的商品・全国市  
場型企业は少なかった。

## キーワード

中小企業 伝統産業 経営史 京都企業 京都経済 老舗企業

## 目 次

はじめに

第 1 章 1985・86 年京都府老舗企業調査

第 2 章 1986・85 年度表彰老舗企業調査の結果

第 3 章 1968・85・86 年老舗企業調査のデータの統合

結論

---

\* 立命館大学名誉教授

## は じ め に

京都市は、長寿企業が多いことは、既に明らかにされている（長島修 2018, 34 頁）。一般に存続期間が長い企業を正確に捕まえることは難しい。何故ならば、創業年次の確定<sup>1)</sup>はかなり難しく、資料も存在しないことが多いからである<sup>2)</sup>。

この困難な課題に先駆的に取り組んできたのが京都府の調査である。1968 年時点で 100 年以上経営を持続している企業（市内 473 社、市外 230 社、計 703 社）<sup>3)</sup>に職員を派遣し、企業、業界団体の申請書を確認・調査し、業界団体、同業者などからの証言や企業の所有する資料によって、確定しようとしたのが、1968 年度に京都府において行われた調査であった<sup>4)</sup>。その目的は老舗企業の家訓・家伝、社訓を収集し、表彰するための調査であった。この表彰過程のなかで収集された資料は、京都府（1970）『老舗と家訓』として公刊された。その後、継続的に老舗に関する調査は行われなかった。

しかし、京都府は、1985 年（市内 309 社、市外 118 社、計 427 社）、86 年に同様の調査（市内 63 社、市外 28 社、計 91 社）をおこなった。この時の調査は、老舗企業として長期にわたって存続してきた京都府内<sup>5)</sup>の企業を表彰することを目的としていた。したがって、調査の目的が 1968 年調査と少し異なっていた。しかし、その方法は、1968 年の調査の方法や手順を相当部分引き継いで行われていたという特徴がある。68 年調査と 85・86 年調査では、老舗企業の重複は排除されて、調査の継承性があり、3 つの調査を統合することが可能である。

勿論、老舗企業調査においては長寿企業の捕捉率は、当然問題になる。1985・86 年調査は 1968 年調査の時に、とらえることが出来ない企業を捕捉している利点もある。勿論、3 つの調査を踏まえても捕捉できなかった長寿企業も当然存在する<sup>6)</sup>。捕捉されなかった理由は、調査において設定した老舗企業基準に何らかの理由で合致せず、老舗企業の認定を受けなかったという場合あるいは表彰辞退の場合などが考えられる。

本稿では京都市内の老舗企業<sup>7)</sup>に限定し、1985・86 年調査の概要と結果をまず明らかにし、次に 68 年調査の研究結果（長島 2018）と統合して（合計 845 社）、京都市の老舗企業の特徴を把握し、老舗企業を大量観察することを課題とする。

## 第 1 章 1985・86 年京都府老舗企業調査

### 第 1 節 1985 年調査資料の存在形態

1985 年 11 月 27 日「京都こども文化会館」において、1985 年 6 月現在を基準として、京都府において 100 年以上存続した企業を老舗とし、老舗表彰が行われた。その際に取り上げ

られた 427（京都市内 309）の企業の明細を示す文書が「京都府立京都学・歴彩館」にある。同館所蔵の資料は、『京の老舗表彰一件』（「昭 60－1148～1150, 1153～1157」）である。辞退企業の一覧の 1 冊（昭和 62－1153）を含む全部で 8 冊の簿冊である。その構成は、事務関係簿冊（昭和 60－1154）、専門委員会報告の簿冊（昭 60－1155）、申請書（昭 60－1148, 1149, 1150, 1157）、調査書（昭 60－1156）からなっている。

## 第 2 節 1985 年調査の老舗表彰基準

老舗表彰の要件をしめした「京の老舗表彰規程」1985 年 6 月 14 日<sup>8)</sup> は下記のとおりである。

- 「(1) 同一業種（別表に掲げる産業に属する業種に限る。）で 100 年以上にわたり府内に主たる事業所を有して営業を継続している者又はこれと同等の業歴を有する者として知事が別に定める者で、家業の理念を受け継いでいるものであること。
- (2) 営業の継続等に関し訴訟その他の紛争の当事者となっていない者であること。
- (3) 知事の表彰を受けるにふさわしくない事実のないこと。
- (4) この規程の目的と同様の目的を有する知事の表彰を受けた者でないこと。」

この表彰は、市町村長又は業界団体の推薦をえて、「京の老舗表彰審査委員会」の意見を聞いて知事が決定するとなっていた（同第 3 条）

業種については建設業、製造業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業（風俗営業、娯楽業（映画業を除く）、医療業・保険衛生、宗教、教育、自由業を除く）となっていた。したがって、サービス業については、限定がされていることを考慮しなければならない。毎年 1 回知事が表彰状及び記念品を授与するとなっていた。ただし、これが毎年行われたわけではない。

京都府商工部「京の老舗表彰基準」<sup>9)</sup> は次のように定められた。表彰基準は、表彰規程に基づいて、基準を明確化したものである。

- ① 「京の老舗表彰規程」第 2 条にかかげているもの
- ② 2 条 1 項の「同等の業歴を有する者として知事が別に定める者」とは

### 「(1) 経営組織の変更

ア 個人→法人、法人→個人間の経営組織の変更は原則として認める。ただし合併等により継続の主体性を失った場合は認めない。

イ 事業上独立した事業体と認められる企業組合の個別営業所」  
となっていた。

### (2) 関連性のある業種に転換した場合。

創業時の業種・取扱商品が時代の変遷とともに発展的に変化した場合で、以下の通り（例示）

ア 菓子→そば

昔のそばは菓子の副業のような形で発生しているので、関連性があるとみられる。

イ 屋根職→建設業

ウ ガラス細工→眼鏡の製造→眼鏡の販売

エ 貴金属→時計商

オ 仏師→仏具商

(3) 昭和 12 年以降の戦時下において営業を休業し、又は合併し、その後独立再開した場合。

ア 戦時中の出征等により一時休業があった場合。ただし、おおむね昭和 26 年までに営業再開したものに限る。

イ 戦時統制により合併・休業したものが、戦後独立再開した場合。ただし、おおむね昭和 26 年までに独立再開したものに限る。

(4) 「企業の倒産については、倒産歴のある企業は認めない。ただし、倒産以降 10 年間経過しており、倒産後すみやかに再建し、現に事業活動が積極的であると認められるときはこの限りではない。」（京都府商工部「京の老舗表彰基準」）

以上のように表彰基準は、ほぼ 68 年の基準と同じであった。

③創業年次及び事業継承を立証するものがない場合は、原則として業界代表者の意見を聴取し、審査にあたっての参考とする。「同業者間での創業 100 年という場合」「使用している用具等の年代が不明であるが、その古さから 100 年以上であると推定される場合」の二つがあげられた。

これをみると、1968 年調査との企業の重複をさけていること、倒産規程がより明確化され倒産後 10 年以上経営活動を持続して順調におこなっていること、などがやや明確にされた程度であり、基本的な基準は 1968 年調査とはかわらなかった。

### 第 3 節 審査委員会の構成

1985 年調査では、老舗と認定し表彰する審査委員会が 1968 年度の組織のされ方と異なっていた。審査委員会は、「京の老舗表彰審査委員会規程」に基づき、組織された。表彰企業の認定は、京の老舗表彰審査委員会の「意見を聴いて知事」が決定するとなっていた（「京の老舗表彰規程」）。

審査委員は、京都府商工部長（清水南）、京都府商工会議所連合会会長（塚本幸一）、京都府商工会連合会会長（吉田明）、京都府中小企業団体中央会会長（古川敏一）、学識経験者（吉田光邦、笹田友三郎、庄林二三雄、西村大治郎＜勲京都市伝統産業会館館長＞）で構成された。

この審査委員会の下に、下記の 3 つの専門委員会が組織され、老舗と認定することが困難なケースの事実上の認定については、この専門委員会がおこなっていた。

「建設業・工業（除染色・工芸）専門委員会」（開催 1985 年 9 月 25 日，10 月 17 日）

「染色・工芸専門委員会」（開催 1985 年 9 月 9 日，10 月 7 日）

「商業サービス専門委員会」（開催 1985 年 9 月 17 日，10 月 7 日）

専門審査委員会の構成は表 1 のとおりである。いずれも各業界の団体の長が名をつらねていた。

表 1 1985 年審査専門委員会名簿

建設業・工業（除 染色・工芸）専門委員会	氏 名
京都府中小企業機械金属団体協議会会長	井上 二郎
京都府菓子工業組合理事長	奥村 孫市
京都府食品産業協議会会長	木村 英三
(社)京都府建設業協会会長	小崎 勇
(社)京都工業会会長	笹尾鮮三郎
(社)京都府木材組合連合会会長	辻井 重郎
京都府印刷関連団体協議会会長	中村 義平
京都府茶協同組合理事長	堀井 信夫
同志社大学教授	笹田友三郎
染織・工芸専門委員会	氏 名
京都友禅協同組合理事長	岩田 治郎
京都友禅工業協同組合理事長	加納 庄平
西陣織工業組合理事長	川島 春夫
丹後織物工業組合理事長	白杉儀一郎
京都織物卸商業組合理事長	西村大治郎
京都伝統工芸協議会会長	若杉 正夫
京都府陶磁器協同組合連合会会長	古川 清
京都大学名誉教授	吉田 光邦
商業・サービス専門委員会	氏 名
京都小売市場連合会会長	上杉 末吉
(財)京都府環境衛生営業指導センター理事長	辰巳幸三郎
京都商店連盟会長	中川文一郎
京都商店街振興組合連合会理事長	中川文一郎
(社)京都府観光連盟会長	西村大治郎
(社)京都府物産協会会長	畑 成太郎
京都市小売商総連合会会長	湯浅卯之助
地域経済研究所	庄林二三雄

資料：「京の老舗表彰審査専門委員会委員」

『京の老舗表彰 1 件』（7-1，昭 60-1154）所収。

注：中川文一郎が二つの団体の代表として出ている。原資料のまま。

#### 第 4 節 老舗の認定方法

1985 年 6 月 15 日，「昭和 60 年度京の老舗表彰の実施について」（1985 年 6 月 15 日，60 染工第 187 号）<sup>10)</sup> を商工部長名で発し，各業界団体に 7 月 20 日までに回答を寄せるように推薦を依頼した。

専門委員会は、「表彰基準」に基づいて、主に老舗と認定できるかどうか疑わしい企業について、議論する場となっていた。審査の進め方はあらかじめ事務局が評価して、それが各専門委員会に報告されていた。

被表彰企業について、職員がヒアリング調査をおこない、さらに文書資料を収集して 4 つに企業を分類し、専門委員会における資料として提出していた<sup>11)</sup>。

- 「A 明治 18 年以前の物的資料があり、業界の伝承、いずれから判断しても 100 年以上の営業経歴があり、その他の表彰要件も充たしており、表彰基準に合致していると考えられる企業
- B 明治 28 年頃の物的資料及び業界の伝承、いずれから判断しても 100 年以上の営業経歴があると推定でき、その他の表彰要件も充たしており、表彰基準に合致しているものと考えられる企業
- C 創業年次を推定する物的資料はほとんどないが、業界の伝承から考えて、100 年以上営業を続けていると思われ、表彰基準に合致していると考えられる企業（表彰基準上、確認資料としては必ずしも帳簿・のれん等の物的資料に限っておらず業界団体の推せんについては同等の証明力を持つと考えております。）
- D 表彰基準の解釈について委員の御意見をお聞きしたい」（「被表彰企業の評価について」『京の老舗表彰一件（7-2）』昭 60-1555）

調査した被表彰企業について、以上の 4 つに分類して AB はほとんど老舗表彰企業としたが、問題は D の企業群であった。これらのグレイゾーン企業について、専門委員会で議論したのである。

例えば、染織工芸課においては、『都の魁』（明治 16 年 1 月 26 日）『売買ひとり案内』（明治 11 年 4 月 23 日）、『商人買物独案内』（天保 2 年）、『京都案内都百種』（明治 27 年 12 月）、『西京人物志』（明治 12 年 5 月）、『新京極沿革志』などから企業を抜き出して、ABCD のランク付けを行いあらかじめ、抜き出していた<sup>12)</sup>（染織工芸課「被表彰候補企業の調査について」1985 年 7 月 24 日、同上）。

## 第 5 節 継承性の問題

表彰基準にあるように、調査は単に企業として創業以来 100 年間経過していることのほかに「家業の理念を受け継いでいる」企業に限定しているのである。調査では、理念の継承性というかなり客観的に判断するには難しい要件を老舗企業判定に入れて、その継承性を問うているのである。ここに 3 回の調査の特徴がある。企業理念の継承という主観的要件をなるべく客観的に判定しようと努めているのである。

事業の継承性ということは老舗を認定する場合、争点の一つになっていた。特に同族企業の

場合は、企業の名称や商品のブランドが同一であっても、継承性が断絶していることがある。

「同族企業の場合の継承については、後継者がいないか、あるいは当代の不行跡等から親類などの合意により、有力な従業員が事業資産（店舗、得意先）を円滑に引継いでいる場合も考慮する」ということになっていた。

「非同族企業の場合は、買収等によらず社員間の大勢の合意のもと、円滑に代表権が継承される限り、特に要件を定めない」<sup>13)</sup> となった。

株式会社の場合は、所有と経営が分離しているのであるから、経営者の継承性は、問題にならない。代表権の委任が順調に継承されていけばよいものとした。一般に株式会社の場合は、経営者は所有者＝株主の委任を受けて経営にあたることになるから、経営の継承性については、所有者の構成が変化すれば経営者も変わることになる。所有者の継承性が円滑に維持されていれば、経営の継承性を問題にしなかった。同族企業の場合が主に問題となっていたのである。

## 第6節 1986年度老舗表彰について

1986年度は前年度と同じ方式で引き続き老舗表彰をおこなうことになった。1985年12月18日には検討が開始され、1986年6月19日に表彰式がおこなわれた。86年度の表彰にあたっては、前年度の基準に合わせて、行われた。実際に、「京の老舗表彰規程」（1985年6月14日）京都府告示第385号、京都府商工部「京の老舗表彰取扱要領」（1985年6月14日施行）<sup>14)</sup> にもとづいておこなわれていた。ただし、そのまま行われたわけではなく、「京の老舗表彰事業の推薦に係る留意点」という資料が作成され86年度の表彰については、明治19年6月19日以前から「京都府内に主たる営業所を置き中断なく継続している（法人・個人）」で、業種の範囲は、建設業、製造業、運輸・通信業、卸売り・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業（風俗営業、娯楽業、医療・保健衛生、宗教、教育、自由業等をのぞく）とされた<sup>15)</sup>。つまり、明治19（1886）年創業企業と1985・68年調査でもれた企業の追加表彰の調査ということになっていた。審査委員会委員、専門委員会委員の構成メンバーは1985年調査と同じであった。

1986年調査では、特に創業年の定義が明確化された。「同族間で営業の分割が行われた場合、名称、営業本拠の継承及び祭祀相続者等から総合的に判断し、いわゆる「本家」と思われる企業のみに分割以前の業歴を認め、分家については、分割時点をもって創業とする」となったのである。継承性の問題については、1985年度調査の基準が引き継がれた<sup>16)</sup>。

公式記録によれば、1986年度老舗表彰企業は91企業（京都市内63、市外28）となっている。3回の調査によって、老舗の捕捉率はかなり上昇したと推測される。しかし、企業自らが表彰を辞退している場合もある。また、業界団体からの推薦を基本としているため、当該業界団体を



が、所属会員に対して十分に老舗企業表彰の情報を伝達していない場合もあった<sup>17)</sup>。また、業界団体に所属していない場合もある。したがって、この 86 年度調査によっても老舗の実態は 100% 明らかになっているわけではない。

## 第 2 章 1986・85 年度表彰老舗企業調査の結果

### 第 1 節 産業別集計結果

表 2 1985, 86 年老舗表彰企業産業別表

産業別	業種別	1985			1986			1985・86 年合計		
		京都市	その他	合 計	京都市	その他	合 計	京都市	その他	合 計
繊維染色 関係	織物製造業	2	13	15	1	5	6	3	18	21
	組紐金銀糸	6	0	6	0	0	0	6	0	6
	染色同関連	23	1	24	3	0	3	26	1	27
	繊維製品卸売り業	25	0	25	2	0	2	27	0	27
	その他繊維製品製造業	0	1	1	1	0	1	1	1	2
	繊維製品小売業	7	11	18	4	2	6	11	13	24
	宗教用繊維製品卸売り小売業	5	0	5	0	0	0	5	0	5
工芸品 関係	宗教用具製造卸売小売業	16	0	16	2	0	2	18	0	18
	扇子製造卸小売業	7	0	7	2	0	2	9	0	9
	陶磁器製造卸売小売業	8	0	8	0	0	0	8	0	8
	金属工芸品製造卸売小売業	5	0	5	0	0	0	5	0	5
	刃物製造卸売小売業	6	0	6	0	0	0	6	0	6
	和紙製造業	0	4	4	0	0	0	0	4	4
	木工芸品製造卸売小売業	3	0	3	0	0	0	3	0	3
	印章業	4	0	4	0	0	0	4	0	4
	表具業	6	0	6	0	0	0	6	0	6
	表装裂地等製造卸売小売業	4	0	4	0	0	0	4	0	4
	人形・陶芸品卸売小売業	5	0	5	0	0	0	5	0	5
	和楽器製造卸売小売業	3	0	3	0	0	0	3	0	3
	その他工芸品製造小売業	6	1	7	6	1	7	12	2	14
機械金属 関係	機械金属製造業	1	1	2	0	0	0	1	1	2
	機械金属卸小売業	1	1	2	1	0	1	2	1	3
医薬品 化学関係	医薬品卸小売業	1	4	5	3	0	3	4	4	8
	染料等製造卸売小売業	3	1	4	0	0	0	3	1	4
	石油類販売業	2	2	4	1	0	1	3	2	5
	燃料小売業	9	0	9	0	0	0	9	0	9
木材木製品 装備品関係	製材木材卸小売業	3	0	3	2	0	2	5	0	5
	家具小売業	6	3	9	0	0	0	6	3	9
	畳小売業	1	6	7	0	0	0	1	6	7
	建具製造小売業	0	1	1	0	1	1	0	2	2
	荒物金物等卸売小売業	8	4	12	0	0	0	8	4	12
身の回り品その他関係		14	6	20	6	4	10	20	10	30
印刷出版 紙製品関係	印刷業	0	1	1	1	0	1	1	1	2
	紙文具小売業	1	3	4	0	0	0	1	3	4
	書籍出版小売業	6	1	7	2	1	3	8	2	10
食料品関係	蒲鉾水産練製品製造卸売小売業	3	6	9	0	0	0	3	6	9
	味噌醬油製造業	3	3	6	1	2	3	4	5	9



食料品関係	菓子製造小売業	16	4	20	2	2	4	18	6	24
	清酒製造業	1	3	4	0	0	0	1	3	4
	製茶業茶小売業	1	13	14	2	4	6	3	17	20
	漬物製造卸小売業	4	0	4	0	0	0	4	0	4
	その他食品製造卸売小売業	4	1	5	0	0	0	4	1	5
	青果卸売業	12	0	12	0	0	0	12	0	12
	青果小売業	6	0	6	4	0	4	10	0	10
	その他食料品卸売業	4	0	4	1	1	2	5	1	6
	塩干魚卸売業	0	0	0	6	0	6	6	0	6
	水産物小売業	3	0	3	0	0	0	3	0	3
	酒類小売業	3	11	14	2	2	4	5	13	18
	米穀小売業	22	4	26	2	1	3	24	5	29
	氷小売業	1	0	1	0	0	0	1	0	1
料理店旅館関係等	料理店	6	1	7	0	0	0	6	1	7
	そば・うどん・すし屋等	7	0	7	0	0	0	7	0	7
	旅館	0	2	2	0	1	1	0	3	3
	理容業	0	0	0	3	1	4	3	1	4
建築業関係	一般土木建設工事	4	3	7	0	0	0	4	3	7
	造園業	1	0	1	1	0	1	2	0	2
	鳶土木工事	3	0	3	0	0	0	3	0	3
	左官工事業	3	1	4	0	0	0	3	1	4
	瓦工事，瓦販売業	2	1	3	2	0	2	4	1	5
	その他建設関係	3	0	3	0	0	0	3	0	3
		309	118	427	63	28	91	372	146	518

資料：京都府「昭和 60 年度京の老舗表彰式」1985 年 11 月 27 日、『京の老舗表彰 1 件（7－1）』昭和 60 年度，  
昭 60－1154，「昭和 61 年度京の老舗表彰企業名簿」，『京の老舗表彰一件』昭 61－97－1

注：①原資料の分類は明らかに誤りがあるとおもわれるので修正した。

②「津の利」は仕出業として，「そば・うどん・寿司屋等」にいたれた。

③「光巖堂」は表具業として，「表具業」にいたれた。

④本集計は、京都府『昭和 60 年度京の老舗表彰式』1985 年 11 月 27 日による。

⑤「昭和 60 年度京の老舗表彰式」（1985 年 11 月 27 日『京の老舗表彰一件』1154）と，「昭和 60 年度京の老舗表彰について」（1985 年 11 月 20 日同簿冊）の両者合計は 427 で合致するが内訳は異なっている。「昭和 60 年度京の老舗表彰について」では市内 311 市外 116 となっている。本表は 11 月 27 日のものに基づいて再集計した。  
なお，新聞もまた 11 月 20 日の発表を採用している（『京都新聞』1985 年 11 月 26 日）。

表 3 1985・86 京都市内老舗企業調査産業別内訳

産業分類	企業数	割合（％）
繊維染色関係	79	21.2
工芸品関係	83	22.3
機械金属関係	3	0.8
医療品化学関係	19	5.1
木材・木製品・装備品関係	20	5.4
身の回り品その他関係	20	5.4
印刷・出版業関係	10	2.7
食料品関係	103	27.7
料理店旅館関係	16	4.3
建築業関係	19	5.1
合 計	372	100.0

資料：京都府「昭和 60 年度京の老舗表彰式」1985 年 11 月 27 日  
『京の老舗表彰 1 件（7－1）』昭和 60 年度  
昭 60－1154  
「昭和 61 年度京の老舗表彰企業名簿」  
『京の老舗表彰一件』昭 61－97－1

1985・86 年度の産業別企業数をみると、第 1 位食料品、第 2 位工芸品、第 3 位繊維染色関係となっていてこの 3 つの産業分野だけで 70% を占めているのである。食料品関係では、新たに水産物関係、青果業の卸売・小売り関係の企業が捕捉されている。また、多くの米穀小売業が入っているのが特徴である。68 年度調査では業種では抜け落ちていた分野が新たに補充されている。工芸品では、宗教用具関係製造卸売小売業が相変わらず多く入ってきている。しかも、江戸時代以来の企業ばかりでなくそれ以前のものもあり、相当程度捕捉率はあがった。

## 第 2 節 創業時期別集計結果

創業時期別産業別の表をみると、1985・86 年調査では、明治期が 50.5% をしめ、江戸時代創業は 48.1% である。これをみると、1968 年調査では江戸時代およびそれ以前創業企業のお舗捕捉率はかなり低かった。勿論基準が若干異なっていたこと、1968 年表彰を辞退していたが、今回の調査では受賞を申請した場合などあったことは十分予想されるのである。85・86 年調査では、1868～1887 年の 19 年間に設立され、1986 年まで存続した企業が計上されていることになる。

まず、1968 年調査は江戸時代以前に設立された企業がピックアップされているが、85・86 年調査では明治初年（1868～1886）に設立された企業に加わっている。明治期初頭創業企業のうち、食料品関係の割合が 28.2% となっている。しかし、その中身を見ると、青果、水産物の卸売小売り（公設市場における仲買業者など）、米穀小売などが加わっていることによる増加である（表 12, 13 参照）。江戸時代の創業もあるが、ほとんどが明治初頭の創業企業である。1968 年調査では食料品関係の分野が十分に捕捉されていなかったということになる。取敢えず 85・86 年老舗表彰企業をまとめたのが表 4, 5 である。

明治期の産業革命以前（1868～1886）に設立された企業をみると、食料品がもっとも大きい割合をしめ、それに次いで繊維染色、工芸品という順位となっている。

表 4 1985, 86 年老舗企業調査産業別創業期別内訳

単位：%

業 種	1985 年老舗企業調査					合 計
	江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	明治期 e	
繊維染色関係	0	2	8	21	37	68
工芸品関係	2	4	11	25	31	73
機械金属関係	0	0	0	0	2	2
医療品化学関係	0	1	4	4	6	15
木材・木製品・装備品関係	0	0	1	6	11	18
身の回り品その他関係	0	0	1	6	7	14
印刷・出版業関係	0	0	0	5	2	7
食料品関係	2	4	4	31	42	83
その他サービス	0	1	3	2	7	13
建築業関係	0	2	2	5	7	16
合 計	4	14	34	105	152	309

1986 年老舗企業調査							
業 種	江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	明治期 e	合 計	不 明
繊維染色関係	0	1	1	4	5	11	0
工芸品関係	0	0	1	2	7	10	0
機械金属関係	0	0	0	1	0	1	0
医療品化学関係	0	0	1	1	2	4	0
木材・木製品・装備品関係	0	0	0	1	1	2	0
身の回り品その他関係	0	0	1	2	3	6	0
印刷・出版業関係	0	0	0	0	3	3	0
食料品関係	0	0	3	6	11	20	0
その他サービス	0	0	1	0	2	3	0
建築業関係	0	0	0	0	2	3	1
合 計	0	1	8	17	36	63	1

1985・86 年老舗企業調査合計								
業 種	江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	明治期 e	合 計	割合 %	明治期創業 割合 %
繊維染色関係	0	3	9	25	42	79	21.2	22.3
工芸品関係	2	4	12	27	38	83	22.3	20.2
機械金属関係	0	0	0	1	2	3	0.8	1.1
医療品化学関係	0	1	5	5	8	19	5.1	4.3
木材・木製品・装備品関係	0	0	1	7	12	20	5.4	6.4
身の回り品その他関係	0	0	2	8	10	20	5.4	5.3
印刷・出版業関係	0	0	0	5	5	10	2.7	2.7
食料品関係	2	4	7	37	53	103	27.7	28.2
その他サービス	0	1	4	2	9	16	4.3	4.8
建築業関係	0	2	2	5	9	19	5.1	4.8
合 計	4	15	42	122	188	372	100	100.0
	1.1	4.0	11.3	32.8	50.5	100		

資料：『昭和 61 年度京の老舗表彰一件』（昭 61－0097，4－2，3，4）

『京の老舗表彰 1 件（7－1）』（昭和 60 年度，昭 60－1148～1150，1153～1157）  
より作成。

1985・86 年調査における老舗規模別表は参考までにかかげると，以下のようである。

表 5 1985・86 年合計老舗企業規模別内訳

業 種	A10 人 未満	B10 人以上 50 人未満	C50 人以上 100 人未満	D100 人以上 300 人未満	E300 人 以上	不 明	合 計
繊維染色関係	48	13	5	6	5	2	79
工芸品関係	61	16	2	1	0	3	83
機械金属関係	1	1	0	0	1	0	3
医療品化学関係	10	4	1	0	0	4	19
木材・木製品・装備品関係	16	3	0	0	0	1	20
身の回り品その他関係	15	0	1	1	0	3	20
印刷・出版業関係	5	2	1	1	0	1	10
食料品関係	72	23	5	0	0	3	103
その他サービス	2	0	0	1	0	1	16
建築業関係	12	7	0	0	0	0	19
合 計	242	69	15	10	6	18	372

資料：『京の老舗表彰 1 件』昭和 60 年度，昭 60－1148～1150，1153～1157

『京の老舗表彰 1 件』昭和 61 年度，昭 61－0097－001～004

### 第 3 章 1968・85・86 年老舗企業調査のデータの統合

#### 第 1 節 1968・85・86 年老舗企業調査の統合

1968 年調査と 1985・86 年調査を統合して全体をみってみる。統合した場合には、いくつかの制約が出てきている。1968 年調査と 85・86 年調査では分類及び分類名称が若干異なっている。68 年調査では「窯業・陶磁器」, 「漆器・人形・扇子その他」となっていた分類は 85・86 年調査の分類基準にしたがって, 「工芸品」という形でまとめることにする。68・85 年調査では, 「料理店, 旅館関係等」となっていた分類は, 理容店も入れて 86 年分類の名称と基準に従って, 「その他サービス」の中に入れる。

3 回の調査を統合した結果, 明治以前に創業された企業で, 68 年調査では捕捉されなかった企業が 1968 年から 86 年までの 19 年間の間に消滅した場合は, この表には反映されない。また, 68 年調査で捕捉されていたが, この空白の 19 年間の間で消滅した企業がこの表の数値に含まれている。

以上のような制約をもちつつも, 3 つの調査を統合して以下検討する。3 つの調査の統合により, 統合表は 86 年時点での京都市において 100 年以上存続していた企業の大量観察ができるというメリットがある。

#### 第 2 節 創業期産業別の内訳

1968・85・86 年の老舗企業調査を統合したのが, 表 6 である。産業別割合をみると, 食料品関係, 繊維染色, 工芸品, 木材・木製品・装備品となっている。

明治期創業（明治元～19 年）は 19 年間という短い期間ではあるが, 188 社 22% となっている。明治期創業老舗企業の割合をみると, 食料品, 繊維染色, 工芸品, 木材木製品の順である。明治期は, 食料品分野の創業老舗企業の割合が 28.2% と多いのも特徴である。明治期創業老舗企業では繊維染色, 工芸品, 食料品だけで 70.7% になっている。

江戸時代以前創業企業は, 寺島念珠（念珠, 天正 10 年）, 虎屋山岡（神祇調度, 天正 10 年）, 長五郎餅（和菓子, 天正 15 年）, 大竹（だいたけ, 青果問屋, 文禄年間）の 4 社が捕捉された。この結果, 江戸時代以前創業老舗企業 27 社（1968 年調査 23 社, 長島 2018, 46 頁）のうち, 7 社が宗教関係の製造乃至販売企業であることが判明した。和菓子製造小売は, 5 社となっていた。江戸時代以前から続く繊維・染色関係企業は少なくなっている。京都老舗企業における宗教関連企業の独特の位置がここにも表れている。

明治期以前に創業された京都市内企業は, 3 つの調査の単純合計（1968－89 年の間に消滅した企業を含む数値）では, 592 社に上るのである（表 7）。その内訳を産業別にみると, 食料品

表 6 老舗表彰企業調査 1968・85・86 年統合表（産業別時期別）

単位：％

	江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	明治期 (明治元～ 19 年) e	合 計	創業期 不明	産業別 割合	明治期 創業産業 別割合
繊維染色関係	5	14	27	89	42	185	8	21.9	22.3
工芸品関係	4	16	20	41	38	147	28	17.4	20.2
機械金属関係	2	2	4	3	2	13	0	1.5	1.1
医療品化学関係	0	4	9	12	8	33	0	3.9	4.3
木材・木製品・装備品関係	4	8	23	35	12	91	9	10.8	6.4
身の回り品その他関係	1	3	6	11	10	35	4	4.1	5.3
印刷・出版業関係	0	1	2	11	5	21	2	2.5	2.7
食料品関係	8	17	28	84	53	197	7	23.3	28.2
その他サービス	3	8	16	17	9	59	6	7.0	4.8
建築業関係	0	8	6	40	9	64	1	7.6	4.8
合 計	27	81	141	343	188	845	65	100	100

資料：『昭和 61 年度京の老舗表彰一件』（昭 61－0097，4－2，3，4）

『京の老舗表彰 1 件（7－1）』（昭和 60 年度，昭 60－1148～1150，1153～1157）

より作成。

『京都府開庁百年記念老舗表彰一件』（昭 43－444－1～3，昭和 43－442）

表 7 1968，85，86 年老舗表彰調査創業期別統合表（明治期創業を除く）

単位：％

産業別	江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	a+b+ c+d 合計	産業別 割合	割 合				
							江戸時代 以前 a	慶長 8 年～ 元禄年間 b	宝永元年～ 享和年間 c	文化元年～ 慶應年間 d	a+b+ c+d
繊維染色関係	5	14	27	89	135	22.8	3.7	10.4	20.0	65.9	100
工芸品関係	4	16	20	41	81	13.7	4.9	19.8	24.7	50.6	100
機械金属関係	2	2	4	3	11	1.9	18.2	18.2	36.4	27.3	100
医療品化学関係	0	4	9	12	25	4.2	0.0	16.0	36.0	48.0	100
木材・木製品・装備品関係	4	8	23	35	70	11.8	5.7	11.4	32.9	50.0	100
身の回り品その他関係	1	3	6	11	21	3.5	4.8	14.3	28.6	52.4	100
印刷・出版業関係	0	1	2	11	14	2.4	0.0	7.1	14.3	78.6	100
食料品関係	8	17	28	84	137	23.1	5.8	12.4	20.4	61.3	100
その他サービス	3	8	16	17	44	7.4	6.8	18.2	36.4	38.6	100
建築業関係	0	8	6	40	54	9.1	0.0	14.8	11.1	74.1	100
合 計	27	81	141	343	592	100.0	4.6	13.7	23.8	57.9	100

資料：『昭和 61 年度京の老舗表彰一件』（昭 61－0097，4－2，3，4）

『京の老舗表彰 1 件（7－1）』（昭和 60 年度，昭 60－1148～1150，1153～1157）

より集計し作成。

注：不明を除いた 68，85，86 年の老舗表彰企業調査の合計。

23.1%，繊維染色 22.8%，工芸品 13.7%，木材・木製品・装備品関係 11.8%，建築関係 9.1 の順となっている。食料品がわずかであるが，繊維関係を上回っている。京都の老舗企業では繊維が一般に注目されるが，食料品の分野こそが老舗の中心になっているのである。食料品の中身を見ると，菓子製造・小売りがやはり多くなっている。それについて，豆腐，蒲鉾などの食料加工品製造販売が多くなっているのも特徴である。また，清酒についても，江戸時代に創業された老舗企業が存続している。繊維や工芸ではやはり，宗教関係にかかわる企業群が注目される。

「工芸品」の宗教用具では，68 年調査で捕捉されなかった明治以前創業企業が 10 社も追加されている。1968 年調査でこれらが捕捉されなかった理由は不明である。工芸品では，刃物製造卸売小売，人形，陶人形なども捕捉されている。

繊維染色部門では、68 年調査でもれていた染色関連の周辺企業、特殊の技能をもつ企業が捕捉されているのである。染色補正の桔梗屋、染色整理の伊藤久、黒紋付き染め北原などが新たに老舗企業として入っている。繊維部門は、幕末明治初頭創業（d + e）が 71% であり新しい企業が集中している（表 6）。食料品も同様である。

### 第 3 節 規模別内訳の検討

表 8 1968・85・86 老舗企業従業員規模別統合表

単位：%

業 種	A10 人 未満	B10 人 以上 50 人未満	C50 人 以上 100 人 未満	D100 人以上 300 人 未満	E300 人以上	不明	合計	不明を 除いた 合計	A10 人 未満	B10 人 以上 50 人未満	C50 人 以上 100 人 未満	D100 人以上 300 人 未満	E300 人以上	合計
繊維染色関係	78	48	19	17	8	15	185	170	45.9	28.2	11.2	10.0	4.7	100
工芸品関係	71	22	3	1	0	50	147	97	73.2	22.7	3.1	1.0	0.0	100
機械金属関係	4	5	1	0	3	0	13	13	30.8	38.5	7.7	0.0	23.1	100
医療品化学関係	17	6	3	0	0	7	33	26	65.4	23.1	11.5	0.0	0.0	100
木材・木製品・装備品関係	60	14	1	0	0	16	91	75	80.0	18.7	1.3	0.0	0.0	100
身の回り品その他関係	19	3	2	1	0	10	35	25	76.0	12.0	8.0	4.0	0.0	100
印刷・出版業関係	9	4	4	1	1	2	21	19	47.4	21.1	21.1	5.3	5.3	100
食料品関係	110	51	9	1	1	25	197	172	64.0	29.7	5.2	0.6	0.6	100
その他サービス	24	26	2	2	0	5	59	54	44.4	48.1	3.7	3.7	0.0	100
建築業関係	35	23	2	2	1	1	64	63	55.6	36.5	3.2	3.2	1.6	100
合 計	427	202	46	25	14	131	845	714	59.8	28.3	6.4	3.5	2.0	100

資料：『京の老舗表彰 1 件』昭和 60 年度

昭 60 - 1148 ~ 1150, 1153 ~ 1157

『京の老舗表彰 1 件』昭和 61 年度

昭 61 - 0097 - 001 ~ 004

『京都府開庁百年記念老舗表彰一件』（昭 43 - 444 - 1 ~ 3, 昭和 43 - 442）

1968, 85, 86 年の京都府老舗企業調査を規模別に統合して示したのが、表 8 である。不明分を除いた 714 企業のうち、従業員 10 人未満が 59.8%, 10 人以上 50 人未満が 28.3% である。両者を合わせると 50 人未満が 88.1% をしめている。300 人以上の企業は 14 社（2.0%）にすぎない。長寿企業は圧倒的に小規模企業であり、会社形態をとっていても、家業的規模の企業である。ただし、産業別に規模別をみると、相違がある。

①繊維産業では、10 人未満企業は 45.9% であり、10 人以上 300 人未満の企業 49.4% であり、京都市の老舗企業のなかでは、中規模企業の割合が高くなっている。西陣織、染色産業では市場規模が大きく、企業規模も大きくなっているのである。300 人以上の老舗企業は、市田（創業明治 11 年）、塚本商事（同文化 9 年）、ムーンバット（同明治 18 年）、吉忠（同明治 8 年）、川島織物（同元禄 14 年）、杉本染染（同安政元年）、外与（同元禄 13 年）、荒川（同明治 19 年）の 8 社である。この中には、繊維産業では伝統的な繊維染色産業の業態から脱していたムーンバットや吉忠のような企業もある。吉忠は、呉服問屋として創業しているが、洋装分野に事業転換し、マネキン分野へ進出した老舗である。またムーンバットは西陣帯地、関東袴地を扱う問屋

からショール、洋装分野へ進出し、ファッション商品を取扱う企業となっている。このように、伝統的な和装産業から、繊維に関連した洋装分野へと転換し、規模を拡大した企業が存在する。他方、外与、市田、杉本練染など伝統的な産業を基本とする分野で成長した老舗企業群も存在するのである。京都の繊維老舗大企業群の中には、二つの異なった性格の企業が混在しているのである。

②機械金属関係産業では、そもそも老舗の数が少ないが、300人以上の企業が3社と大企業の割合は高くなっている。300人以上の企業は島津製作所、福田箔粉工業、三谷伸銅である。福田箔粉工業、三谷伸銅は明治以前に創業し、伝統的な産業から脱し、現代的な金属製品を製造する企業に変身したものである。島津製作所は、医療機械、教育用機械器具など明治期の新しい機械産業の需要に応えるために、創立されており直接には江戸時代の伝統産業を引き継いでいるわけではない。

③食料品関係の企業は、10人未満が64.0%、10人以上50人未満が29.7%、50人未満企業合計で93.7%である。10人未満の家業的規模の企業の割合が、圧倒的に多くなっている。しかも、原料調達、製造、卸売り、小売りなどにかかわる経営資源のあらゆる要素を内部化しているから、取引コストを節約することができている。同時に、それは技術の流出を防ぎ、量産品にありがちな匿名性を排除してブランドを守るということを可能とし、その他の競争企業との商品・サービスの差別化をはかり、高い参入障壁を築くことを可能とした。高い参入障壁を築くことは、企業の維持存続を図るうえで重要な要件となっているのである。しかし、同時にこのことは、大きな全国市場を相手に競争する組織能力をもつ大企業への短期間での成長には不向きである。

和菓子製造小売り、米穀販売、豆腐製造小売りなどの老舗企業は、京都市内の店舗周辺の日常的な地域安定的な消費財需要や寺社の需要に対応する企業である。和菓子製造・小売りでは、虎屋のように京都に事業所において、全国的（世界的）な市場展開を図っている企業もあるが、例外的な企業である。

和菓子製造小売り企業群の京都的特徴の一つは、禁裏御用、公家、寺社の需要にこたえるべく高い技術を保有しているものが少なくない点である。「亀屋重久」大徳寺御用達、「亀屋陸奥」本願寺御用達、「御粽司川端道喜」、「笹屋伊織」禁裏御用、「鶴屋吉信」茶道、「松屋常盤」大徳寺など和菓子の場合は、独自の「銘菓」をもち、禁裏、公家、社寺、茶道との長期継続的關係を保ちつつ技術を継承し、大規模な全国、グローバル市場への展開を計らずに経営を存続しているのである。現代においては、高い技術によって作られた品質のよい商品は、インターネットによって拡散し、ブランドとしての価値を確立している。

食料品関係企業の中では、全国的な大きな市場を相手に経営を展開する企業群もある。これらの企業群は、全国展開するだけの組織能力をもち、規模も大きくなっている。300人以上の



代表的企業は、大倉酒造（現、月桂冠）である。比較的大規模な市場を目指せば、企業規模は大きくなって行くことは避けられない。

京都の老舗の中心となる食料品関係企業は、10 人以下の小規模企業群で構成され、独特の高い技術を現代にまで継承して経営資源を内部化しているのである。1980 年代半ばの時点では、その価値が社会的に充分認知されていなかったようである。老舗企業の中には、その内部に蓄えられた経営資源を認知されることなく廃業にいたっている場合も多いのである。

④「工芸品」、「身の回り品」、「木材・木製品・装備品」などの分野では、10 人未満の家族経営規模の企業群が多くなっている。10 人未満経営の割合は、工芸品 73.2%、身の回り品 76.0%、木材・木製品・装備品 80.0% となっている。70% 以上が家業規模の経営である。これらの企業群の特徴は、手工業的職人的な企業経営であり、非匿名的な伝統的な製品を高い技術で作り上げ、製造、販売しているのである。

工芸品では、陶磁器、瓦、漆器、人形、うちわ扇子など、木材・木製品・装備品では、建具、家具、畳、宗教用具（念珠、仏壇、仏具）、荒物販売など、身の回り品では、装飾品、時計、香、文具、釣り具など産業分類からみれば雑品に属するような商品がほとんどである。企業の中に経営資源を内部化し、伝承された技術を受け継ぐ職人的手工業的な商品がおおくなっている。全国的に見ても、家業的規模で、貴重な技能、技術をもつ産業分野として長期に存続してきたのである。しかし、市場としても、それ程大きいものではなく、恒常的安定的に需要がないので、伝統的商品の分野だけでは経営の持続性に限界をもっている。

宗教関連分野の「工芸品」、「身の回り品」、「木材・木製品・装備品」の商品・サービスを提供する企業は、参入困難な独特の技術<sup>18)</sup>、宗教慣行にそったサービスの提供<sup>19)</sup>と結びついている。宗派の独自の商品・サービスの提供が可能な企業は限られてくるのである。宗教関連は、繊維産業における企業も同様の性格をもっているのである。京都においては、宗教に関連した商品サービスを提供する老舗企業群が多いのである。京都の宗教関連老舗企業は、本山の

表 9 京都市事業規模別構成と老舗規模別構成の比較

単位：%

	10 人未満	10 人以上 50 人未満	50 人以上 100 人未満	100 人以上 300 人未満	300 人以上	合 計
京都市事業所数 A	90,772	11,714	981	516	119	104,102
老舗企業数 B	427	202	46	25	14	714
出現率 C%	0.5	1.7	4.7	4.8	11.8	0.7
京都市規模構成 D%	87.2	11.3	0.9	0.5	0.1	100
老舗規模構成 E%	59.8	28.3	6.4	3.5	2.0	100
老舗特化係数 F	69	251	684	706	1715	

資料：『京都市統計書』1988 年版、本稿表 8 により作成。

注：①京都市の数値は『京都市統計書』記載されている民間企業事業所の合計であり、国、地方の公共団体の事業所は除いた 1986 年 7 月 1 日の数値である。

②京都市の数値は農業、林業、水産業、公務の事業所は除いた数値である。

③老舗調査の内不明 131 を除いた数値である。

④老舗特化係数は  $F = E / D$  である。

集中する京都の地理的な優位性を生かして、寺社と長期継続的關係を構築し高い参入障壁を築いて、ある一定の需要を取り込むことにより、長期存続が可能となっているのである。

『京都市統計書』1988年版に掲載されている事業所（1986年7月1日現在）は経済活動の場所ごとの単位であり、企業と一緒にすることはできない。企業は、複数の事業所をもっている場合が多いからである。しかし、1985・86年時点の老舗企業の位置づけを見るためには、製造業、商業など広範な業種を網羅したものとしては、事業所統計を利用せざるをえない。市内の事業所規模別構成をみると、10人未満は87.2%と圧倒的に小規模企業がしめている。50人未満の企業が98.5%となっている。300人以上の企業は0.7%に過ぎない。老舗企業の出現率をみると、規模が大きくなるにつれて出現率があがっている。

従業員規模別数が不明の企業が、131あるので、それを除いて規模が分かっている企業のみで比較すると、規模別老舗特化係数は表9のようになる。規模が上昇するにつれて特化係数が上昇しているのである。不明の131を10人未満の企業にいれると、出現率、特化係数ともに上昇するがこの傾向は変わらない。

老舗企業における小規模企業の割合は多いが、小規模企業は出現率は低く、特化係数も低くなっている。企業規模の大きい老舗企業ほど、老舗出現率と特化係数は上昇する。京都の企業は、企業規模が大きいほど、老舗企業に特化していることになる<sup>20)</sup>。京都の老舗企業は、一定規模にまで到達し、市場も長期継続的取引関係で安定してくると経営は相対的に安定してくる。しかし、特殊な条件をもたない限り小規模企業の経営は安定的ではないのである。

#### 第4節 区別老舗企業調査統合表の検討

表10 1968・85・86年老舗企業調査の地域分布統合表 単位：％，企業数

区 別	1968	1985	1986	合 計	割 合
上京区	86	37	8	131	15.5
中京区	140	103	12	255	30.2
下京区	117	81	18	216	25.6
左京区	23	7	1	31	3.7
右京区	15	4	3	22	2.6
北 区	7	7	2	16	1.9
伏見区	27	16	9	52	6.2
東山区	51	46	8	105	12.4
南 区	6	5	1	12	1.4
西京区*	0	3	1	4	0.5
不 明	1	0	0	1	0.1
合 計	473	309	63	845	100.0

資料：『京都府開庁百年記念老舗表彰一件』（昭和43－442）

『京の老舗表彰一件』（昭和60－1154）

『昭和61年度京の老舗表彰一件』（昭61－0097、4－1）

注：①\*西京区は、1976年松尾、桂、川岡、枝野、大原野が右京区から分区したが、原資料のままを掲げる。

1968・85・86の所在地(本社、本店)の分布状況をみると、上京区、中京区、下京区の狭い空間に、71.3%の老舗企業が集中している。68年調査とほとんどその割合は変化していない。これに隣接する東山区を加えると83.7%に老舗企業が集中していることになる。京都の老舗企業は、極めて狭い空間に集中して存在している。左京区、右京区、北区などにある老舗企業は、上記集中地域に存在していた企業が本社、本店を移転したケースが多くなっている(「象彦」,「長久堂」など)。また、造園業(植藤造園、植芳造園、大平造園、寺石造園など)の分野では市内周辺部でもともと事業を展開していた企業であった。造園業のような事業では、土地、自然環境などを考慮すれば、周辺地区に位置することが必要になっていたからである。

表 11 老舗企業調査と京都市事業統計の地域別比較

単位: %, 個数

	老舗調査 A	京都市事業所 統計 B	出現率 A / B	老舗構成 割合 C	京都市事業所統計 構成割合 D	地域別特化 係数 C / D
上京区	131	10,932	1.2	15.5	10.5	148
中京区	255	15,968	1.6	30.2	15.3	197
下京区	216	11,589	1.9	25.6	11.1	230
左京区	31	9,906	0.3	3.7	9.5	39
右京区*	26	14,660	0.2	3.1	14.1	22
北 区	16	8,573	0.2	1.9	8.2	23
伏見区	52	10,644	0.5	6.2	10.2	60
東山区**	105	14,157	0.7	12.4	13.6	91
南 区	12	7,673	0.2	1.4	7.4	19
	844	104,102	0.8	100	100	100

資料:『京都市統計書』1988年版,表 10

注:①京都市の数値は『京都市統計書』記載されている民間企業事業所の合計であり、国、地方の公共団体の事業所は除いた1986年7月1日の数値である。

②京都市の数値は農業、林業、水産業、公務の事業所は除いた数値である。

③老舗調査の数値不明は除く

④西京区の数値は右京区に入れる。

⑤山科区の数値は東山区の数値に入れる

『京都市統計書』による市内区別の事業所分布と比較してみると、老舗企業調査の老舗企業の区別分布はかなり異なっている。なお、比較ために、1968年現在の区の構成に修正した表であることを注意する必要がある(表11,注④,⑤)。『京都市統計書』の事業所の区別分布(1986年7月1日現在)でみると、上京区、中京区、下京区、伏見区、東山区が事業所としては、大体10~15%の割合で分布し、北区、左京区、南区が10%未満でやや低い割合となっている。これに対して老舗企業の分布は、上京区、中京区、下京区の割合が著しく高くなっている。その結果、上、中、下京区の老舗特化係数はいずれも高くなっているのである。

大規模な空襲に見舞われなかった京都市は、経済活動の中心地で継続的に事業を営むことが可能であった。老舗が移転するとしても、周辺部であり、多くは移転することがなかったことがこうした地域分布を反映している。また、京都市内の織物、染色産業のように、複雑な分業関係を問屋制家内工業によって組織化されている産業では情報、取引が日常的に接近していることが取引コストをさげることになる。老舗企業の周辺部への移転は難しかったのである。

## 結 論

京都府の老舗企業調査は、1968年と85・86年と目的がやや異なっているが、1968・85・86年度とほぼ同一の基準で、各年度から100年経過して存続している企業について、重複なく抽出され実施された。これらを総合すると、京都市の老舗企業の産業分野は、食料品、繊維関係、工芸品がもっとも多かった。

創業年でみると、文化元年～慶應4年までの幕末期が多くなっていた。明治期創業企業は、調査の範囲が19年間と短い期間であるが、相当数にのぼっていた。老舗企業は、規模としては従業員数10人未満の小規模企業が圧倒的であった。企業規模の拡大に連れて、老舗企業出現率も上昇し、老舗企業の規模別特化係数は高くなっていた。地区別に老舗企業の分布をとってみると上京区、中京区、下京区は出現率も高く、多くの老舗企業はこの狭い街中に集中している傾向を持っていたのである。

京都市の老舗企業は市場規模と商品の性格という視点から整理すると（長島2018）、A1 伝統的商品・地域市場型企业（和菓子、豆腐、米穀販売）、A2 伝統的商品・全国市場型企业（西陣織、染色、伏見清酒、陶磁器）、B2 近代的商品・全国市場型企业（福田箔粉工業、島津製作所）にわけることができる。京都の老舗企業は圧倒的にA1、A2の企業が多くなっているのである。

産地間競争に巻き込まれることなく<sup>21)</sup>、伝統的商品を地域内で消費或いは全国に供給する家業的規模の老舗企業群が多く存在しているのである。家業的規模の企業は、食料品関係に典型的にみられるように、経営資源を内部化し、取引コストの削減をはかっている。大きくはないが、一定の安定した市場と優れた技術を内部にもっているから、企業の持続性を担保しているのである。また、A2に属するが、参入困難な独特の技術、宗教慣行にそったサービス、宗派の独自の商品の提供、独自の技術をもっている宗教関連の分野は、産地間競争の圧力は比較的少なく、市場の規模は大きくないが常に一定の需要があり企業存続の要因となっている。京都の老舗企業は、一定規模にまで到達し、市場も長期継続的取引関係で安定してくると経営は相対的に安定してくる。しかし、A1の小規模企業は、周辺環境の変化にともなう市場条件の変化や継承性の問題に直面すると事業経営は安定的ではないのである。また、A2西陣織・京焼に見られるように、伝統的商品を全国（世界）市場に供給する老舗企業の場合には、独自の超絶的な技術やブランドを保持しないかぎり、厳しい産地間競争（グローバル競争）にさらされることになり、リスク管理と組織能力の構築がないと老舗企業といえども、安定的な持続性を担保するのは難しくなるのである。

本論文は、老舗企業調査の意義と概要を検討することを課題としており、老舗企業の存在形態については、各産業分野の商品・サービスの特質、技術、市場規模、市場競争条件などは個

別に検討していない。こうした課題は今後の検討課題としておく。

表 12 1985 年京都府老舗企業調査名簿

	業 種	名 称	屋 号	創 業	職 業	住所	創業者
繊維染色関係	織物製造業	谷常織物	萬屋	天保 12 年	西陣帯地	上京区	萬屋太助
		銭屋（長瀬）	銭屋	文化年間	法衣金蘭	上京区	長瀬宇八
	組紐・金銀糸・縫糸製造	黒川藤造商店		明治以前	神官装束用組紐，御輿房，座敷用御簾，房紐，馬具三懸鍔紐，能装束用紐，組紐製造卸	上京区	黒川藤造
		尾池工業㈱		明治 9 年	金銀糸，真空蒸着製品	下京区	尾池鉄太郎
		清水権治郎商店		明治初年	金糸銀糸専業製造販売	中京区	清水文之助
		長谷川金糸㈱	長谷川亀次郎商店	明治 11 年	金糸銀糸平箔	中京区	長谷川亀次郎
		林元㈱	林梅之助商店	明治 12 年	絹縫糸，合織ミシン糸	中京区	林梅之助
		村瀬縫合糸	村瀬糸店	明治 12 年	医療用絹糸	上京区	村瀬利八
	染色同関連	(有)伊藤久（いとうきゅう）整理	菱屋	元治元年	染織整理	中京区	伊藤久兵衛
		㈱大村紅染加工場	綿正	明治 17 年	染織加工，絹布及び人絹紅染並特殊加工	中京区	大村直七
		(有)桂染工場		明和元年	黒紋付染業	中京区	甚助
		㈱川瀬芸	川瀬武七商店	安政 4 年	友禪染，型友禪	中京区	武七
		川端張工場	柏忠	明治 8 年	法衣張り，法衣張りの墨染	下京区	岡田忠八
		(有)北源	小樹屋源助	天保 6 年	京黒紋付染め	中京区	北村源助
		絹屋	絹屋	安政 2 年	手描糊置業	中京区	絹屋清兵衛 (木村清兵衛)
		桔梗苑	桔梗屋猶吉	明治 16 年	染織補正，呉服浸落し	中京区	猶吉
		桔梗屋	桔梗屋太七	天保元年	染織補正	中京区	太七
		近喜染工場	近江屋	安永年間	浸染（色染）	下京区	近江屋新兵衛
		佐藤染工場	小紅屋	享保年間	僧衣地無地染	中京区	小紅屋長兵衛
		白木屋	白木屋	元治元年	絹布精錬	中京区	内藤茂兵衛
		㈱高野染工場	○高（○の中に高） 高野染物店	明治 4 年	絹織物紅染特殊整理加工	中京区	高野宇七
		多田友㈱	多田友禪	明治 8 年	工芸染織，手描友禪	下京区	多田源治郎
		土山旗店	土山染物店	明治 16 年	染織加工，旗，幕，暖簾等の 印入染物製造販売	中京区	土田藤吉
		林茂染工	「の中に玉，林染工場	明治 14 年	木綿，絹布の無地染	下京区	林久助
		(有)藤本染工	浜阪屋	嘉永 7 年	浸染，法衣，袈裟の無地染	中京区	藤本藤兵衛
		馬場染工業㈱	柊屋	明治 3 年	黒紋付き染	中京区	馬場新七
		松菱裏絹加工(有)	松菱屋嘉兵衛 (松葉屋嘉兵衛)	天保 14 年	絹布整理白張り	中京区	松菱屋嘉兵衛 (松葉屋嘉兵衛)
		森井染工場	森竹染工場	慶応 4 年	浸染，法衣，袈裟小幅誂え無 地染め	下京区	森井竹次郎
		磯田刺繍店		明治 11 年	刺繍	中京区	磯田亀次郎
		卯兵衛	卯兵衛	文久 2 年	刺繍	中京区	茂森卯兵衛
		(有)西刺繍	袋屋甚兵衛	明治 8 年	刺繍	下京区	西治三郎
	繊維製造卸 売業	㈱井澤屋	井筒屋	慶応元年	和装小物	東山区	井澤清兵衛
		市田(有)		明治 11 年 (府内開設)	繊維製品	下京区	市田弥一郎
		ウエダガン		明治 6 年	呉服総合卸売	下京区	津の国屋（上 田）勘兵衛
		遠藤商店	平野屋	慶安 5 年	京染卸売り	中京区	平野屋（遠藤 里左衛門）
		大野(有)		明治 16 年	男物和装裏地，業務用繊維製 品	中京区	大野岩蔵
		大橋(有)		明治 18 年	呉服総合卸	下京区	大橋彌一郎
		カラコルム(有)	松田伊太郎商店	明治 16 年	毛皮，洋傘，シュール	中京区	松田伊太郎
		沢村(有)	穂積屋	明治 7 年	和洋装製品	下京区	沢村常七

繊維染色関係	繊維製造卸売業	ぜにや商事(株)	銭屋（谷田商店）	明治 5 年	足袋、くつした	中京区	谷田広助
		(株)タクマ本社	河内屋	慶安 5 年	京鹿の子絞り	下京区	河内屋長兵衛
		塚本商事(株)	紅屋	文化 9 年 (京都支店天保 10 年開設)	繊維製品卸売り	中京区	塚本定右衛門
		塚喜商事	塚本喜左衛門商店	慶応 3 年	繊維、毛皮、宝石	下京区	塚本喜左衛門
		テラムラ	*大阪屋	天明 8 年	京染卸売り販売	中京区	*大阪屋喜衛門
		(株)富藤（とみとう）	田中藤兵衛商店	明治 18 年	呉服帯地、大島紬、西陣着尺、服地、西陣織物産地問屋	上京区	田中藤兵衛
		鳥谷芳男商店	恵見須屋半兵衛	明治 5 年	京染呉服染悉皆商	中京区	半兵衛
		長江伊三郎商店		明治 14 年	染絹呉服卸売り	下京区	長江伊三郎
		(株)西帯（にしおび）	村西源蔵商店	享和元年	西陣織り帯地卸売り（前売り）	上京区	源蔵
		星久		寛政初期	呉服卸売り	中京区	松居久左衛門
		分銅屋	分銅屋	元治元年	足袋	中京区	邑林六郎兵衛
		丸池藤井(株)	池善	明治 12 年	繊維、白生地、染呉服、婦人服地	中京区	池田屋（藤井）善七
		(株)マルケーオガワ	墨屋	安政 3 年	綿織物卸売り（帯地、裏地、小幅綿地）	中京区	墨屋（小川）新兵衛
		ムーンバット(株)	河野商店	明治 18 年	ファッション	下京区	河野与右衛門
		山口源	誉田屋（こんだや）	明治 6 年	西陣帯地、京染呉服	中京区	山口源兵衛
	繊維製品小売業	吉全	吉田全助商店（吉全）	明治 15 年	染呉服	下京区	吉田全助
		吉忠(株)	吉田商店（吉田忠商店）	明治 8 年	服地、マネキン、アパレル	中京区	吉田茂八
		ゑり正	布屋	安永 4 年	和装小物、下着など小売り	中京区	浦田清兵衛
		桐畑ふとん店	桐畑商店（明治期）、桐畑綿行（大正期）	明治 9 年	綿、真綿、ふとん	下京区	桐畑政治郎
		久保洋服店		明治 2 年頃	紳士服跳え	中京区	久保竹次郎
		(株)田中幸		明治 3 年以前	衣料品、洋品雑貨	南区	田中幸次郎
		(株)天狗堂	天狗メリヤス小野商店	明治 16 年	紳士洋品、靴下、ネクタイ等洋品雑貨	中京区	小野藤二郎
		(有)西川太兵衛商店	綿屋太兵衛	宝暦 3 年	寝具小売り	上京区	綿屋太兵衛
		森儀糸店	美濃忠、美濃屋儀兵衛商店	天保 6 年	糸類、毛編糸、縫い糸、和装芸材料、組みひも	東山区	美濃屋儀兵衛
		(株)大西法衣仏具店	橘宇	慶応元年	法衣、仏具、	東山区	橘屋大西宇七
	宗教用繊維製品卸小売業	(株)川勝法衣店		明治 8 年	寺院用荘厳、法衣	下京区	川勝儀右衛門
		清光堂池端法衣店		明治 4 年	法衣（日蓮宗専門）	下京区	池端清兵衛
		(有)湯浅興七商店		明治 10 年	法衣および仏具販売	中京区	湯浅興七
		(株)湯浅興兵衛商店	山八、八与	天保 5 年	法衣	下京区	八文字屋興兵衛
		安藤		明治 11 年	法衣仏具	東山区	安藤宇助
工芸関係	宗教用製造卸売り小売り	井長	井長	安政 4 年	函製造業、神社祭典具、神職洋品保存箱、仏職洋品保存箱、呉服保存箱、小包函、荷造り函	中京区	松居長左衛門
		(株)今井彩色	今井源七	弘化 4 年	仏画、神仏具彩色	下京区	今井源七
		大笹屋		元禄元年	太鼓、雅楽器	左京区	松浦與四郎
		木具七	木具七（きぐしち）	明治 18 年	有職、木具、神具	中京区	奥村七郎兵衛（本名清七）
		高岡仏壇仏具製作所	塗安	明治 8 年	仏壇仏具	下京区	高岡安次郎
		寺嶋念珠老舗		天正 10 年	念珠	下京区	寺嶋義信（作右衛門）
		虎屋山岡商店	虎屋利兵衛	天正 10 年	神祇調度（御冠、烏帽子）	中京区	山岡五郎右衛門
		中村萬助商店	中村商店	明治 2 年	念珠、仏具	下京区	中村いと
		南條工房	二方屋	天保 10 年	仏具鳴り物	伏見区	南條勘三郎
		(株)のむら	野村商店	明治 18 年	神官装束織物業	上京区	野村佐兵衛
		浜上仏具店		天保 3 年	仏具	下京区	浜上庄七
		藤田法光堂		天保 6 年	仏壇仏具	下京区	藤田惣兵衛
		三浦官蔵仏壇店		明治 15 年	仏壇仏具	下京区	三浦官蔵



工芸関係	宗教用製造卸売り小売り	(有)森田屋福野御仏具處		安政 6 年	仏壇仏具	南区	森田小三郎
		(株)森本銚金具製作所		明治 10 年	社寺銚金具、殿内調度、御神宝類	下京区	森本安之助
	扇子製造卸売小売	遠藤新兵衛商店	丹波屋新兵衛	安永 7 年	宮中、寺院用扇子	下京区	丹波屋(遠藤)新兵衛
		(有)岡丸屋扇舗	岡本安兵衛商店	明治 17 年	扇子	東山区	岡本ゑん
		坂田文助商店		文政 4 年	扇子、雑貨輸出入商	下京区	坂田文助
		高橋利兵衛商店	小松屋利兵衛	明治 15 年	扇子	下京区	高橋利兵衛
		団扇堂(だんせんどう)	菱屋又兵衛	天保 10 年	扇子	伏見区	菱屋又兵衛
		徳田喜	徳田喜	明治 8 年	京扇子箔上絵加飾	下京区	徳田喜助
		本家十松屋	十松屋藤左衛門	元禄 16 年(寛永 6 年)不明	能楽用扇子	中京区	十松屋藤左衛門
	陶磁器製造卸売小売業	朝日堂		明治 3 年	清水焼を中心とする陶磁器	東山区	閑宮宮太夫、浅井国順
		(株)岡田	近江屋	寛政 10 年	陶器	東山区	近江屋長兵衛
		木村寅之助商店	カネ政	文久 2 年頃	煎茶抹茶器、陶磁器	東山区	木村政七
		酒見商店		明治 16 年	陶磁器、	東山区	酒見久吉
		(株)銭平錦玉堂	銭平商店	明治 5 年	陶磁器	東山区	岡本平蔵
		谷寛商店	近江屋	明治 5 年	茶道具、美術陶磁器	東山区	谷口菊次郎
		日陶産業(株)	近江屋、○の中に谷	明治 3 年	陶磁器	東山区	谷口恒三郎
	金属工芸製造卸売小売り	(株)萬珠堂	近江屋利平衡	天明元年	清水焼華道用陶器、美術陶器	東山区	利兵衛
		上杉青龍堂	ゝの下に「太」	明治 18 年	銅器、美術銅器、一般銅器	下京区	上杉辰之助
		金師高木治郎兵衛		安政 2 年	茶の湯釜、鉄瓶、茶道用付属品	中京区	高木治郎兵衛
		三洋工芸苑	中村竹影堂、竹影堂栄真	寛成元年	彫金、鍍起、銚	中京区	中村金吾
		日新工芸(株)	仏具屋嘉兵衛	延宝 8 年	金属工芸、カップ、盾、トロフィー、メタルパッチ、記念品、表彰状(金属)	東山区	仏具屋嘉兵衛
	刃物製造卸売小売	伴太商店	大坂屋、伴太	明治元年	金属工芸品	中京区	大坂屋伴太左衛門
		(株)有次	源有次	元文 2 年以前	料理包丁、金物、調理器具	中京区	荒木安房守源有清
		(株)金高刃物老舗	御打刃物藤原金高	嘉永 2 年以降	金属製品、刃物	中京区	金高屋清エ門※
		重春	重春	天保 9 年	包丁、はさみ、彫刻刀	中京区	吉村とも
		八木包丁店		明治 10 年	刃物製造	中京区	八木音次郎
		安清(やすきよ)	かじひこ	明治 3 年	打ち刃物	上京区	山本政次郎
	木工芸品製造卸小売	義定(よしさだ)山口刃物製造所	義定	明和 7 年	料理包丁、扇子道具	東山区	藤屋藤兵衛
		(有)江南(えなみ)	近江屋	天保 9 年	真田紐、指物、木工品	下京区	江南伊助
		たる源	樽源	慶応元年	たる、桶、指物製造販売	東山区	田中原七
	印章業	(株)和田卯	和田卯商店	明治元年	指物、和風照明器具	下京区	和田藤七
		関西シールズセンター(畑正印房)	畑松柏堂	明治 10 年	印章、ゴム印	上京区	畑正太郎
		芹川印判舗	芹川金右衛門	江戸時代	印章ゴム印	左京区	芹川金右衛門
		(有)第 1 印房	伊豫屋	文政 10 年	印章	下京区	伊豫屋(中野)梅吉
	表具業	中村翠雲堂印房		明治 8 年	印章、ゴム印	下京区	中村半兵衛
		橋本光厳堂(こうがんどう)		明治 18 年	掛け軸寺院用壁面金箔貼り付け	下京区	橋本岩次郎
		大森雅泉堂	カクラ、□の中にヲ	明治 13 年	古文書修理、製帙表装	左京区	大森幸七
		尚古堂		安政 6 年	掛軸古書類修復調整、軸装	下京区	河尻喜代八
		天真堂	榊治	寛政 8 年	新古美術、表具販売	中京区	榊屋治兵衛



工芸関係	表具業	中村圓真堂	表弁	慶応4年	軸装, 額装	左京区	中村弁次郎
		森長老舗	森長, ×の下の白	文政4年	京表具, 座机小売り	中京区	長兵衛
	表装裂地等製造卸小売	㈱岡澤	榊屋金蘭店	明治6年	表装裂地, 美術織物, 壁織物の製造	上京区	岡澤兼次郎
		鳥居㈱	鳥居長兵衛商店	明治5年	表装, 額装裂地卸, 美術織物, 金蘭綴子	中京区	鳥居長兵衛
		京塗師孫 西川孫助商店		明治18年	国宝重要文化財社寺漆塗り襖 額装材製造卸	中京区	西川孫助
		㈱丸熊	熊谷商店	天保2年	表装裂地, 額装裂地	中京区	熊谷萬蔵
	人形陶人形製造卸売小売り	(南)北村松月堂	松月堂	明治4年	節句屏風製造	中京区	北村仁七
		㈱誉勘商店 (こんかん)	誉田屋勘兵衛	宝暦元年	金襴裂地, 人形用金蘭地, 神 官装束類	中京区	誉田屋勘兵衛
		㈱島津有職堂	伊勢嘉	天保4年	京人形, 3月人形, 5月人形, 結納用品製造販売	下京区	島津嘉助
		㈱静岳(せいがく)	桂商店(創業時)	明治15年	京人形, 京陶人形	東山区	桂次郎吉
	和楽器製造卸売小売業	村田陶苑工房	井筒屋熊治郎	万延元年	陶磁器, 京人形	東山区	井筒屋(村田) 熊次郎
		(南)琴伝	琴屋伝兵衛	元禄年間	琴, 三弦	中京区	琴屋伝兵衛
		㈱島羽屋	小篠島羽屋 (おざさとばや)	嘉永元年	邦楽器系製造(雅楽弦, 古代 弦, 琵琶弦, 箏の弦, 三弦),	上京区	小篠長兵衛 (おざさ)
	その他の工芸品製造卸小売	山田雅楽器		明治6年	雅楽器(鳳笙, 龍笛, 高麗笛, 能管など)	中京区	山田幸次郎
		柴田石材㈱	石屋吉兵衛	宝暦元年以前	建築石材, 石造美術, 記念碑, 造園設計	中京区	石屋吉兵衛
		小椋木地挽物所	近江屋治郎兵衛	元文5年	木地挽物	中京区	近江屋次郎兵衛
		㈱竹定商店		明治10年	竹材加工, 伐採	右京区	井上定次郎
		㈱大嶋	大嶋屋喜助	天保11年	婚礼儀式用品販売	下京区	大嶋喜助
		清水末商店	晴春堂	慶応元年	木製彫刻看板	中京区	清水幸次郎
		奈良太山本太一商店	奈良太, 奈良屋多兵衛	天明8年年	荷造り材料, 張籠, 柳行李, ファイバーケース	中京区	奈良屋多兵衛
機械金属関係	機械金属製造業	㈱島津製作所		明治8年	医療機械, 計測機械, 航空機 機器	中京区	島津源蔵
	機械金属卸売小売	成瀬農機具㈱	成瀬野鍛冶店	明治44年	農工具, 農芸用具, 鍛造品	上京区	成瀬長松
医療品・化学関係	医薬品卸売小売	京栄薬品㈱	綿屋伊助問屋, 小西伊兵衛商店	天明元年	漢方薬卸製造	中京区	小西伊右衛門
	染料等製造卸売小売	合名会社上羽絵具 商会	絵総	宝暦元年	日本画絵具	下京区	絵具屋惣兵衛
		田中直染料店 (たなかなお)	山崎屋太兵衛, ^の下に太	享保18年	植物染料, 合成染料, 染色資 材	中京区	山崎屋太兵衛
		長谷川商店	八文字屋清右衛門	元禄元年	染色, 工芸材料	中京区	八文字屋清右 衛門
	石油類販売業	大柳石油㈱	伊勢吉	慶応年間	ガソリンスタンド, 動植物油 販売	上京区	伊勢吉
		木村石油㈱	井筒屋	文化10年	石油類	下京区	井筒屋木村小 兵衛
	燃料小売業	和泉春石津商店 (いづみはるいしづ)	和泉屋春蔵	天明年間	燃料	中京区	和泉屋春蔵
		加納商店	美濃伝	明治10年	薪炭, 豆炭, 石油, 氷	中京区	加納伝助
		(南)高岡商店	高岡薪炭店	明治17年	薪炭, 練炭, 灯油, LPガス	東山区	高岡政一郎
		寺井商店	佐野金	明治4年	燃料全般	左京区	寺井金五郎
		徳本燃料店	徳本薪炭店	明治15年	薪炭, 練炭, 豆炭	中京区	徳本伊之助
		(南)ナガサワ	長澤薪炭店	明治5年	薪炭, 練炭, 豆炭, LPガス, マンション経営	伏見区	長澤ユキ
		三宅産業	伊勢久(いせきゅう)	明治2年	燃料販売, 住宅設備販売	下京区	三宅久七
		八木兵(やぎひょう)	木屋兵三郎	安政2年	燃料販売	右京区	八木兵三郎
		山崎燃料店	丹岩(たんゆわ) 商店	慶応年間	石油, 暖房器具薪炭	下京区	山崎岩兵衛

木材木製品装備品関係	製材木材卸売小売業	国松木材㈱	国松仙吉商店	明治 7 年	木材製品販売, 銘木合板	中京区	国松仙吉
		柴定木材	柴屋庄兵衛	天保年間	木材製材建設	上京区	柴屋庄兵衛
		㈱中江製材所	絹卯中江商店	明治 9 年	製材, 型枠, 合板	伏見区	中江卯之助
	家具小売商	㈱川上	川上道具店	明治 16 年	家具, インテリア, システム家具小売, 室内改装	中京区	川上清次郎
		桜井唐木(からき)本店		明治 8 年	唐木調度専門店	中京区	桜井平右衛門
		㈱中塚商店	中塚道具店	明治 10 年	家具	伏見区	中塚休助
		㈱西山タンス店	柏屋忠兵衛	天明 8 年	家具	伏見区	柏屋忠兵衛
		㈱松室タンス	松室箆笥店	嘉永元年	家具	下京区	松室忠三
	畳製造小売	㈱森寅タンス	森寅	文政年間	家具	下京区	源助
		笹崎畳店		文久 2 年	畳製造販売	伏見区	笹崎与左衛門
	荒物金物等卸売小売業	箸幸商店		明治元年	割りばし, 家庭日用品	東山区	伊碩光学
		内藤商店	桔梗利	文政元年	生活雑貨, 棕櫚専門	中京区	内藤利兵衛
		萬善		文化 3 年	荒物陶器, 金物, ガラス	下京区	萬屋(松田)善兵衛
		井上金網店	稲扱屋(いねこぎや)	明治 8 年	金網, 篩加工	下京区	井上吾三郎
		島津金網	網武	明治 14 年	金網, フェンス工事, 網戸	中京区	島津武兵衛
		白井金網店(出町のおし屋)	出町のおし屋	明治 12 年	篩(とおし), せいろ, 金網加工	上京区	植村芳太郎
		幅田金網製作所	幅田金網とおし	明治 12 年	金網とおし	上京区	幅田虎次郎
		山田金網店	㌒の中に平	明治 15 年	金網	中京区	山田平次郎
身のまわり品その他関係	身のまわり品その他関係	㈱上村商事	金甲堂	明治 10 年	装粧品卸小間物	下京区	上村利兵衛
		オーツカ化粧品店	近江屋	嘉永 6 年(府内開業明治 15 年)	化粧品雑貨	東山区	大塚平兵衛
		村上履物店		明治 17 年	履物	東山区	村上松之助
		平山善一商店	平山商店	明治 8 年	洋傘, 履物	東山区	平山善太郎
		山竹十三や(やまたけじゅうさんや)	山竹, ^ の下に竹	明治 6 年	つけ櫛	下京区	竹内治三吉
		林龍昇堂	升屋	天保 5 年	薫物線香製造卸小売	中京区	升屋傳兵衛
		関わた吾商店	わた悟	嘉永 3 年	ろうそく, 薫物	下京区	和谷吾平
		河合時計店		明治 8 年	時計, 貴金属, 眼鏡	下京区	河合庄平衛
		服部宝飾老舗	伊勢安	天保 7 年(寛政年代ともいわれる)	亀甲, 貴金属, 時計, 宝飾品	下京区	伊勢屋久兵衛
		内藤商店	にむらや	明治 6 年	傘, 提灯	下京区	内藤源三郎
		花忠商店	花屋又兵衛	享和元年	生花販売	左京区	花屋又兵衛
		紅屋公益会, 紅花園ハイツ		天保 4 年		中京区	紅屋治兵衛
		松本写真館		明治 14 年	写真撮影	上京区	松本勝太郎
		㈱堀真澄写真館	大坂屋与兵衛	元治元年	写真撮影	北区	堀与兵衛
印刷出版紙製品関係	紙文具小売業	㈱今中壺中堂		明治 6 年	紙・文具	中京区	今中辰之助
		㈱橘僊堂大槻書店	㈱橘僊堂平野屋	慶応 2 年	書籍・雑誌	上京区	平野屋善兵衛
	書籍出版・小売	㈱京都駿々堂	書肆駿々堂	明治 14 年	書籍	中京区	大洲渉
		九如堂(きゅうじょうどう, 後きゅうじょうどう)	九如堂	安政 6 年	古書籍販売	上京区	佐々木慶助春成(ささきけいすけはるなり)
		㈱法蔵館	丁子屋七兵衛(ちょうじや)	嘉永 3 年	書籍出版小売り	下京区	西村七兵衛
		山城屋文政堂藤井佐兵衛	山城屋佐兵衛	文政年間	仏教書	下京区	山城屋佐兵衛
		若林書店	若山屋茂助	天保 8 年	教科書	中京区	若山屋茂助(若林茂助)
食料品関係	蒲鉾水産練製品製造卸売小売	㈱茨木屋	茨木屋	明治 2 年	蒲鉾	中京区	池内豊次郎

食料品関係	蒲鉾水産練製品製造卸売小売	(有)菊嘉商店	菊屋嘉助	天保元年	京かまぼこ	東山区	菊屋嘉助
		万平	万亀	明治元年	蒲鉾	東山区	土岡亀次郎
	味噌醤油製造業	(有)関東屋商店	関東屋忠兵衛	弘化 4 年	京味噌	中京区	西田忠兵衛
		木田醤油(株)	河佐	安政 2 年	醤油味噌製造	伏見区	河内屋佐助
	菓子製造小売	(株)本田商店	三条本田商店	明治 14 年	味噌製造販売	中京区	三輪芳太郎
		今西製菓(株)	今西政助商店	明治 9 年	飴菓子	下京区	今西政助
		老松堂	老松堂	明治 14 年	和菓子, 餅, 赤飯	東山区	松本勘藏
		尾張屋西村衛生ボーロ本舗	尾張屋	文政 9 年	衛生ボーロ	中京区	箕浦伝左衛門
		亀屋廣和	亀屋	嘉永元年	和菓子	中京区	杉谷弥兵衛
		亀山	俵屋	文政 8 年	和菓子	下京区	新七
		甘泉堂		明治 15 年	和菓子	東山区	山本次三郎
		(株)塩芳軒(しおよし)		明治 16 年	和菓子	上京区	高家由次郎
		神馬堂		明治 5 年	生菓子, 焼餅	北区	池田季吉
		(有)末吉餅	村上モチヤ	明治 18 年	和菓子, 焼餅, 鏡モチ	伏見区	村上定祥
		(有)長五郎餅本舗	長五郎餅	天正 15 年	和菓子	上京区	河内屋長五郎
		(株)中村軒		明治 16 年	生菓子製造販売	西京区	中村芳松
		(株)鳴海餅本店	鳴海餅	明治 8 年	赤飯, 餅菓子, 和菓子	上京区	鳴海力松
		(有)平七屋老舗		文久 2 年	和菓子製造販売, 喫茶, たばこ販売	伏見区	留吉
		(株)豆政	角政(かくまさ)	明治 17 年	豆菓子製造販売, 五色豆	中京区	角田政吉
		都本舗小島餅本店	都饅頭	明治 16 年	和菓子	下京区	小島卯之助
	(有)望月本舗	菊水堂	明治元年	和菓子製造・販売	中京区	松井恒太郎	
	清酒製造業	美木屋		嘉永 2 年	清酒	中京区	安田治兵衛
	製茶業・茶小売業	(株)井六園	井六家	文政元年	緑茶製造販売	南区	井上六兵衛
	漬物製造卸小売業	赤尾屋	八文字屋	元禄 12 年	漬物製造小売	東山区	土田小兵衛
		(有)総本家近清(きんせ)	近江屋	文化 7 年	漬物製造小売	下京区	近江屋清右衛門
		野村次郎助商店	近江屋	明暦元年	京漬物	東山区	近江屋次郎助
		(株)村上重本店(むらかみじゅう)	○のなかに十	天保年間	漬物佃煮	下京区	村上重右衛門
	その他食品製造卸小売業	梅垣商店		天保 10 年	蒟蒻製造卸	下京区	丹後屋弥兵衛
		ぎばし		明治元年	京昆布, 吹き寄せ製造小売	下京区	上田与七
	青果卸売業	(株)半兵衛麩	萬屋半兵衛	元禄年間	麩の製造販売	東山区	萬屋半兵衛
		松原牛乳(株)		明治 9 年	牛乳, 乳飲料製造	伏見区	松原栄太郎
		(株)大竹(だいたけ)		文禄年間	青果問屋, 仲卸業	東山区	四郎左衛門
		(株)河宇本店	河宇	嘉永元年	青果物仲買	下京区	藪田宇兵衛
		塩卯		明治 9 年	遠隔地野菜の仲卸売	下京区	吉田宇之助
		(株)朱常(しゅうつね)		明治 16 年	青果仲卸	下京区	内田常次郎
		(株)津之嘉(つのか)		明治以前	青果仲買	伏見区	井上寅吉
		(株)鳥羽伊三(とばいさ)		明治元年	果実卸	下京区	奈佐伊三郎
		(株)鳥羽弥		明治 10 年	果実仲卸	南区	田中寅吉
		(株)西市(にしいち)		嘉永 4 年	果実仲卸	下京区	山田太右衛門
		西又(株)		慶応元年	青果仲卸	下京区	谷口又兵衛
		(株)西和	西和	天保	青果仲卸	下京区	竹岡太吉
		(株)丸芳	鳥羽芳	明治元年	遠隔地野菜仲卸	下京区	奈佐伊三郎
		淀青果(株)	問嘉(といか)	元禄年間	青果卸売	伏見区	問屋嘉兵衛
	その他食品卸売業	(有)田邊屋商店	かねそ, 田宗, 田邊屋	天保元年	鯉節, 砂糖, 鶏卵, 乾物の卸売り小売	中京区	山内宗三郎
		北尾商事(株)	北尾砂糖	文久 2 年	砂糖雑穀卸売り	下京区	北尾庄次郎
		京都鯉節(株)	中西定吉商店	明治 12 年	鯉節, 削節, 乾物, 食品卸	南区	中西定吉
		(株)モリタ屋	盛牛舎森田屋	明治 2 年	肉料理, 食肉販売, 生鮮食品販売	中京区	森田伊三郎
青果小売業	近庄(きんしょう)	近江屋	明治 9 年	青果乾物食料品一般の小売り	上京区	広瀬留吉	

青果小売業	香樹園八百林	八百林（やおりん）	明和 6 年	果物	中京区	八百屋林右衛門	
	旬会社ヤオイソ	磯七（いそしち）	安政 2 年	果物小売，フルーツパーラー	下京区	長谷川磯七	
	八百卯		明治 12 年	果物小売	中京区	村井市之助	
	矢尾豊（やおとよ）	井筒屋	文政 9 年	果実，フルーツパーラー，和洋酒小売り	下京区	清水清八	
水産物小売業	八百文（やおぶん）	近江屋文造	寛政年間	果物小売	東山区	近江屋文造	
	木村食料品店		明治 15 年	食料品小売	上京区	木村政吉	
	大新食料品店（だいしん）	大新乾物店	明治 5 年	鮮魚，塩干物，乾物等販売	上京区	大雲新次郎	
酒類販売業	㈱大松（だいまつ）	大松	明治 3 年	魚貝類小売	中京区	内藤松太郎	
	㈱奥田商店		明治 6 年	和洋酒，調味料，味噌小売	中京区	奥田徳兵衛	
	㈱小田佐商店	出屋敷屋	文化 5 年	酒類，食料品販売	北区	小田佐兵衛	
	八源（はちげん）	八幡屋源七	弘化 2 年	酒類	東山区	孫兵衛	
食料品関係	あずま米穀店	伊賀屋久兵衛	元治元年	米穀小売	上京区	伊賀屋久兵衛	
	大米（おおまい）	藤田商店	安政 3 年	米穀食料品小売	上京区	藤田松之助	
	尾張屋	尾張屋	明治 18 年	米穀雑穀搗精小売	下京区	中西儀右衛門	
	亀井米穀店	亀岩米店	明治 6 年	米穀小売	上京区	亀井岩次郎	
	木野村米穀店	木野安	天保 14 年	米穀，たばこ，食料品小売	東山区	木ノ村安造	
	倉内商店		明治 10 年	米穀小売	上京区	倉内重太郎	
	大仏米穀販売所（第 5 食糧品販売企業組合）	山口商店	明治 14 年	米穀小売	東山区	山口政次郎	
	第 6 食料品販売企業組合竹島販売所	山城屋	文久 3 年	米穀小売	東山区	山城屋伊兵衛	
	高田米穀店	多力田	明治 2 年	米穀小売	下京区	高田庄三郎	
	田村米穀店	米新	文久 2 年	米穀小売	東山区	田村新助	
	丹定米穀店（たんさだ）	丹後屋定七	文化 5 年	米穀小売	中京区	竹内定八	
	㈱とみや米穀店	西利商店	明治元年	米穀小売	東山区	西田利八	
	中山食料販売所（三卯米穀店）	三卯米穀店	安永元年	米穀小売	上京区	三文字屋清兵衛	
	二条米穀店セキムラ	関村米屋	明治 3 年	米穀，食料品販売	中京区	関村卯兵衛	
	沼田米穀店	沼繁米穀店	明治 17 年	米穀	東山区	沼田繁造	
	㈱原米穀店	敦賀屋	寛政 2 年	米穀，食品卸売小売	下京区	敦賀屋善五郎	
	藤井米穀店	竹吉（たけきち）	天保 13 年	米穀食料品小売	下京区	藤井吉次郎	
	㈱富士食糧販売所		明治 16 年	米穀小売	北区	鍛持亀吉	
	豊和食糧㈱	米元（こめげん）	明治 10 年	米穀，酒，たばこ小売	西京区	井上元次郎	
	堀万米穀店	井筒屋	万延以前	米穀，食料小売	東山区	井筒屋万次郎	
	門前堀清	堀清	明治 14 年	米穀小売	北区	堀清七	
	やまもと米穀店	米甚（こめじん）	明治 10 年	米穀小売	下京区	山本甚太郎	
	氷小売業	森田氷室本店（もりたひょうしつ）	森田商店	明治 12 年	冰雪販売	東山区	森田庄七
	料理店	㈱伊勢長	伊勢長	正徳 5 年	京料理店	中京区	伊勢屋長兵衛
西陣魚新		魚新	安政 2 年	有職京料理，懐石料理	上京区	角屋新助	
二傳㈱			宝暦 7 年	料理仕出し，料亭	中京区	傳七	
鮎茶屋平野屋			江戸初期	鮎川魚料理	右京区		
㈱三島亭			明治 6 年	正肉販売，料理業（牛肉，すき焼き）	中京区	三島兼吉	
㈱レストラン井筒		津田佐（つださ）	文化 2 年	料理飲食，菓子販売	東山区	津田佐兵衛	
更科		更科	明治 7 年	蕎麦屋	中京区	鬼頭常造（名古屋出身）	
佐乃竹		佐乃竹	明治 5 年	麺類	東山区	西村竹	
常盤（ときわ）			明治元年	麺類，寿司	東山区	吉田良俊	
㈱三条田毎			明治 2 年	麺類製造販売，料理	北区	堀部徳兵衛	
㈱いさみ寿司		いさみ	明治元年	寿司	中京区	中川武助	
元祖小町寿司			明治 10 年	寿司	東山区	氷上福松	
津乃利（つのり）		津の国屋	安永年間	仕出し	中京区	津乃国屋藤田利助	

建設業関係	一般土木建築工事	幾田建設(株)	近江屋	文化 4 年	総合建設	伏見区	近江屋磯吉
		伸和建設(株)		元和元年 (府内明治 12 年)	社寺及び一般建築請負業	右京区	稲垣啓二
		(株)武田工務店	萬源	明治 4 年	建設業	上京区	亀吉
		(有)堀内工務店	聚楽の堀内	慶応元年	建設業	北区	音吉
	造園業	(株)植津津田造園 (うえせいつたぞうえん)		明治 11 年	造園設計, 施工, 管理	左京区	津田政吉
	高土木工事業	金吉 (かなきち)	金吉 (かなきち)	慶応元年	土木建築請負	上京区	金屋吉兵衛
		(株)材源 (さいげん)	材木屋吉兵衛	寛政 2 年以前	建設業	上京区	材木屋吉兵衛
		西奈良建設		明治 16 年	建設業	上京区	西村奈良之助
	左官工事業	安達左官店	丹波屋嘉兵衛	文政元年	左官	下京区	丹波屋嘉兵衛
		河野左官工業所		明治 3 年	左官	上京区	河野竹松
		竹内左官工業		天保 16 年	左官	伏見区	竹内藤七
	瓦工事・瓦販売	瓦久田中瓦店 (かわらひさ)		明治 15 年	瓦工事瓦販売	東山区	田中久吉
		(有)佐野瓦工業所	瓦師屋 (かわらしや)	元禄年間	瓦販売, 施工	西京区	半左衛門
	その他建設関係	河原製樋商店 (かわはらせいとい)	三清 (さんせい)	宝暦年間	建築板金	中京区	三文字屋清兵衛
		石村硝子(株)	石村商店	明治 7 年	硝子サッシ施工	伏見区	石村庄太郎
		ヒノキ硝子(株)	ひのきや	明治初年	建築用板ガラス, サッシ工事	中京区	檜常助

資料：京都府「昭和 60 年度京の老舗表彰式」1985 年 11 月 27 日

『京の老舗表彰 1 件 (7-1)』昭和 60 年度, 昭 60-1154 同上, 昭 60-1148 ~ 1150, 1153 ~ 1157

注：①原資料の分類は明らかに誤りがあるとおもわれるので修正した。

②「津の利」は仕出業として, 「そば・うどん・寿司屋等」にいった。

③「光巖堂」は表具業として, 「表具業」にいった。

④本集計は, 京都府『昭和 60 年度京の老舗表彰式』1985 年 11 月 27 日による。

⑤「京の老舗表彰申請書」の「事業内容」に記載されているものにちかづけて産業欄は記述した。

ただし, 全体の統一をとるために修正したものもある。業種は「事業内容」の記述を基本とし, とじ込み資料の記述を考慮した

⑥屋号は時期によっても異なる。屋号の欄は創業時の企業名も含んでいる。

⑦市内に支店を持つ場合は, 本店を所在地とした。

⑧\*漢字など表記に疑問があるが, 申請書のままとした。

表 13 1986 年度老舗企業調査名簿

	業種	名称	屋号	創業	職業	住所	創業者
繊維染色関係	織物・金銀糸製造業	(株)安見和三郎商店		明治 17 年	金糸銀糸	上京区	安見和三郎
	染色同関連業	木内染工場 (きうちそめこうじょう)	樹屋	万延 2 年頃	無地浸染	中京区	木内庄助
		(有)栗原紋工芸	三文字屋	天保 2 年	紋糊加工	中京区	栗原長兵衛
		中川染織		明治 2 年	旗, 幕, 暖簾, 袋物類製造販売	東山区	中川源治郎
	繊維製品卸売業	荒川(株)	荒川益治郎商店	明治 19 年	和装小物, 洋装品製造卸売	下京区	荒川益次郎
		(有)黒田庄商店	黒田正三郎商店	明治 3 年	西陣呉服卸	下京区	黒田正三郎 (庄三郎)
	その他繊維製品製造卸売小売業 繊維製品小売業	小田商店	市田屋	嘉永 2 年	麻, 糸, 網, ローブ製造, 卸, 小売	下京区	市田屋伊兵衛
		かつおか呉服店	津国屋	天和 2 年	呉服小売	伏見区	津国屋喜三郎
		たち花屋呉服店		嘉永 6 年	呉服, 既製品, 洋反物, 小物, 洋品販売	上京区	橘屋吉郎右衛門
		(有)松前屋		明治 2 年	婦人紳士洋品小売	中京区	中川武兵衛
		万伊本店 (まんい)	萬屋 (よろずや)	享保 10 年	寝具類小売	上京区	萬屋庄助

工芸関係	宗教用具製造卸売小売	㈱松下装束店	装束師松下能登目	嘉永元年以前	神官装束、祭典調衣、殿内装飾品販売	中京区	4代目松下季行
		㈱三上装束店	三上治助商店	明治 2 年	神官装束祭具製造販売	中京区	三上治助
	扇子製・同関連業	華香堂		明治 3 年	扇面絵加工	北区	栄次郎
		招壽堂南部商店		明治 4 年	扇子、うちわ、カレンダー	下京区	南部卯三郎
	その他の工芸品製造販売卸小売業	㈱菊光堂	鏑由	明治 3 年	茶道具工芸品附属一式	下京区	奥村由次郎
		島田忠三製作所	島久	明治元年	神社神輿、社寺鏑金具、祭り具引受	中京区	島田久七
		平田翠簾商店	紀之国屋又兵衛、○のなかに紀		御簾、すだれ、縄のれん製造販売	東山区	紀之国屋又兵衛
		弥平次	海老藤	天明以前	陶器製造	東山区	海老屋藤助
		八幡内匠 (やはたたくみ)		明治元年	雅楽器製作 (笙、龍笛、能笛など)	上京区	八幡内匠行政
		よつめや清水人形 (きよみずにんぎょう)	松月山鸞亭	文政年間頃	土人形製造販売	東山区	高橋庄左衛門
機械金属関係	機械金属関係	㈱田中文商店	カナタ	安政 3 年	鉄鋼材卸	下京区	田中文治郎
医療品・化学関係	医薬品卸売小売業	岸川薬局	岸川大龍堂薬舗	明治 8 年	薬品販売	上京区	岸川嘉七
		下垣薬局	富山屋	慶応 2 年	薬品販売	中京区	富屋幸助 (下垣忠七)
		原田薬局	原田屋	宝永元年	医薬品販売	伏見区	原田多兵衛
	石油類販売業	西川石油㈱	カネ源または油源	安政 6 年	石油類小売、卸売り、ガソリンスタンド経営	下京区	油屋(西川)五兵衛
木材木製品関係	製材木材卸売小売業	㈱サン製材所	中屋または中喜	天保 12 年	製材業	右京区	中屋喜右衛門
		西和林産(南)	西栄	明治 13 年	木材製品販売	右京区	西栄吉郎
身の回り品その他関係		㈱幾岡屋		文久 2 年	和装小物、用品などの問屋小物問屋	東山区	幾岡仙助
		吹田貿易株式会社	津の国屋	寛永 2 年	輸入卸(美術工芸品、陶磁器、貴金属、ガラス製品、雑貨、家具、インテリア)	中京区	津の国屋清五郎
		清奇堂		明治 8 年	書画骨董茶道具	下京区	服部多七
		春城時計店		明治 4 年	時計眼鏡宝飾品販売	伏見区	春城儀兵衛
		ファインバッグマルニ	丸二	明治 10 年	鞆、袋物、ハンドバック	伏見区	若代隼太郎
印刷・書籍関係	印刷業	中西印刷	松香堂	明治 3 年	印刷業	上京区	中西嘉助
	書籍出版・小売業	鴻宝堂川勝書店	丹後屋	明治元年	書籍販売	伏見区	川勝徳次郎
		㈱豊田愛山堂		明治初年	経典版元、香、線香販売	東山区	豊田熊太郎
食料品関係	醤油製造小売業	小杉醤油醸造元	ヤマキッコー、アイイチタマリ	明治 16 年	醤油醸造	左京区	小杉樺次郎
	菓子製造小売業	音羽屋老舗 (おとわやろうほ)	音羽屋	慶安 3 年	和菓子製造販売	下京区	澤井甚兵衛
		㈱船はしや総本店		明治 18 年	五色豆、豆菓子の製造販売	中京区	辻喜之助
	製茶業・茶卸売小売	亀井園(かねしん)	カネシン	明治 15 年	茶卸売小売	伏見区	辻新兵衛
		桃香園	茶屋伍兵衛	元禄年間	茶、こぶ茶、茶道具	伏見区	茶屋伍兵衛
	その他食品製造卸売小売	㈱湯葉弥		明治 14 年	湯葉製造卸売小売	下京区	中村弥三郎
	塩干魚卸売業	㈱越喜商店(えちき)		天保 14 年	塩干物	下京区	越後屋喜助
		桐山商店	備後屋	文化 10 年	塩干魚	下京区	備後屋利助
㈱辻為商店		大安(だいやす)	元治元年	塩干仲卸	下京区	辻安之助	
		細見商店	奈良屋	文政 3 年	海産物卸売り	下京区	



食料品関係	塩干魚卸売業	山利商店	美之萬	明治初期	塩干卸	下京区	太田利八
		マルイ合同		明治 15 年	塩干卸	下京区	西村幾太郎
	青果小売業	千松青果 (せんまつせいかわ)		慶応元年	青果物小売	北区	中村松之助
		総本家八百松老舗 (やおまつろうほ)	八百松	文久 3 年	京都特産青果物 (松茸、筍) 販売	西京区	坂本松右衛門
		矢尾市青果店		明治 15 年	青果物	東山区	多田市郎兵衛
		八百廣		明治 3 年	青果及び食料品販売	中京区	石塚広吉
	酒類小売業	菊六酒店	菊屋	延宝 2 年	酒類販売	上京区	菊屋六兵衛
		中徳商店		明治 18 年	酒類、清涼飲料水 小売	中京区	中村藤吉
	米穀小売業	新六北原米穀店	米徳	明治 7 年	米穀小売	伏見区	北原徳治郎
		西尾食品有限会社	田中屋	明治 5 年	米穀小売	下京区	西尾清助
その他 サービス業 関係	理容業	ヘアーサロン・カ ワウチ		明治 13 年	理容業	東山区	川内喜助
		ヘアーサロン・コ ヤマ	吉兵衛床、 大阪屋	天和年代	理容業	伏見区	吉兵衛
		理容しんぼ	床金（とこきん）	明治 18 年	理容業	上京区	新保寅吉
建設業関係	造園業	植音		明治 3 年	造園庭師	右京区	奥田音吉
	瓦工事業	セガワ屋根工業株	瀬川商店	明治 13 年	各神社仏閣の屋根 工事	下京区	瀬川音吉
		山本守瓦店	瓦梅	不明		南区	山本梅吉

資料：「昭和 61 年度 京の老舗表彰企業名簿」

『京の老舗表彰一件』昭 61，0097－001 所収。

注：①上記資料と申請票を照合のうえ作成。

②申請票は、『京の老舗表彰一件』昭 61，0097－2～4

### <注>

- 1) 企業の創業年を正確に決定するのは困難な場合が多い。特に、江戸時代以前となると、企業の申請に依存せざるをえない。創業年を示す文書資料は殆ど存在しない。また、現存する企業もまた、長い経過のなかで、吸収合併があり、継承性に疑問のある場合も多い。
- 2) なお、1982 年 10 月 26 日に京都商工会議所が「創立 100 周年記念顕彰」（京都府庁文書『京の老舗表彰一件』昭 60 年度，昭和 60－1154）をおこなっている（303 社）。京都商工会議所の会員以外のものが相当数もれていて、老舗企業の実態を検討するうえでは、京都府の調査は有効性が高い。
- 3) 本論文では、特に断らない限り、創業 100 年以上を経過した企業を老舗企業と呼ぶことにする。百年というのは特に明確な根拠があるわけではないが、長期に存続したという意味をこめている。
- 4) 長島修（2018）の 1968 年老舗調査の結果を参照。また、同調査によって収集された家訓、家伝については、京都府（1970）、松本通晴（1977）をも参照。
- 5) 「京都府内に主たる事務所を設置していることが要件で」あるが、事務所については「主たる」ものであって、本店に限定しているわけではないと断っている。重要な支店が府内に設置されており、その支店自体が京都企業としてとして業界において認知を受けていれば「主たる事業所」と認めとしている（『京の老舗表彰審査にあたっての留意点』（『京の老舗表彰一件』（7－1）昭 60－1154）。
- 6) 1968，85，86 年の調査でも捕捉されなかった企業は勿論存在する。例えば、「一文字屋和助」，「かざり屋」など江戸時代以前創業として名高い企業はこの調査には入っていない。それがどのような理由からかは不明である。つまり、京都府老舗調査にも捕捉されなかった 100 年以上存続の老舗は存在するのである。また、創業期を示す資料が長期の間に失われてしまった場合もある。その場合は、老舗として認定されないこともある。また、資料がそもそも存在しない企業もある。京都の老舗企業の中には、京都府の表彰を辞退していた企業もあった。



- 7) 1968, 85, 86 年の調査対象は、京都府内の老舗企業である。京都府の調査であるから、京都市外の地域も含んだ調査であるが、本稿の対象は京都市内の老舗企業に限定している。
- 8) 「京の老舗表彰規程」1985 年 6 月 14 日、第 2 条、『京の老舗表彰一件』（7-1）昭 60-1155
- 9) 同上。
- 10) 『京の老舗表彰一件』（7-1）昭 60-1154
- 11) 「被表彰企業の評価について」『京の老舗表彰 1 件』（7-2）昭和 60-1155
- 12) 染織工芸課「被表彰候補企業の調査について」1985 年 7 月 24 日『京の老舗表彰一件』（7-1）昭 60-1154
- 13) 「京の老舗表彰事業の推薦に係る留意点」同上
- 14) 『昭和 61 年度京の表彰一件』昭 61, 0097-4-1
- 15) 「京の老舗表彰事業の推薦に係る留意点」同上
- 16) 同上
- 17) 表彰終了後に、刃物製造販売の「安重」は府に対して、所属団体から老舗表彰の募集について、連絡はなく、選考基準について府に対して問い合わせがあった。府は、「安重」を 7 月 11 日に追加表彰していた（同上）。なお、「安重」は 1968 年表彰については、表彰を辞退していた。
- 18) 山本合金製作所（慶應 2 年創業）は神鏡という現在では日常的に使用されないが、宗教用具としては必要な用具である。しかも、日本でもこうした用具を製作できる場所は限られている。
- 19) 宗派によって、法衣には微妙に色、法衣の仕様に相違がある。長い慣行の中で構築された長期継続的取引関係を築くことにより、宗派本山の求める仕様の宗教用品やサービスに対して新規参入することが難しくなっているのである。
- 20) こうした京都における老舗企業の存在形態については、個別企業、産業において、実証的に深めることにより解明することが必要であることはいうまでもない。それは、本稿の課題ではないので別稿によって検討したい。
- 21) 明治前期の日本の織物業について、蘇生型、衰退型、成長型に分類整理して、輸入綿布と産地間との競争の中で分岐していった様相を描いた阿部武司（1983）は小経営の存在形態が競争のあり方によって、異なったタイプに変容していくことを描いた興味深い論文である。こうした競争のあり方と小経営の主体的対応の在り方がその後の企業のあり方を決定してゆくものと思われる。

#### ＜参考文献＞

- 阿部武司、谷本雅之（1995）「企業勃興と近代経営」『日本経営史 2 経営革新と工業化』岩波書店、91～138 頁。
- 阿部武司（1983）「明治前期における日本の在来産業—綿織物の場合—」梅村又次、中村隆英編（1983）『松方財政と殖産興業政策』東京大学出版会、295～317 頁。
- 足立政男（1974）『老舗の家訓と家業経営』広池学園事業部
- 後藤俊夫編著（2012）『ファミリー・ビジネス—知られざる実力と可能性—』白桃書房
- 橋野知子（2016）「歴史的視点から見た産地京都の今日的意味」（橋野知子、高槻泰郎、山本千映「産地京都の 300 年—明治維新から 21 世紀まで—」『経営史学』第 51 巻第 1 号、55～57 頁。
- 日夏嘉寿雄、今口忠政編著（2000）『京都企業の光と影—成長・衰退のメカニズムと再生への展望—』思文閣出版
- 堀江英一・後藤靖（1950）『西陣機業の研究』有斐閣
- 加藤敬太（2008）「老舗企業研究の新たな展開に向けて—経営戦略論における解釈論アプローチから—」『企業家研究』第 5 号、2008 年 6 月、33～44 頁。
- 経営史学会編（2015）『経営史学の 50 年』日本経済評論社
- 金泰旭編著（2014）『地域ファミリー企業におけるビジネスシステムの形成と発展』白桃書房

- 京都府（1970）『老舗と家訓』京都府
- 京都市（1988）『京都市統計書』1987年版
- 駒敏郎（1976）『京の老舗』駸々堂出版
- 松本通晴（1977）「京都「老舗」研究—その予備的考察—」『社会科学』同志社大学人文科学研究所，第23号，1977年12月，77～107頁。
- 松岡憲司（2013）「京都の伝統産業」松岡憲司編著，109～128頁。
- 松岡憲司編著（2013）『事業継承と地域産業の発展—京都老舗企業の伝統と革新—』新評論
- 宮本又次監修大阪商工会議所編著（1981）『商いは永続とみつけたり—老舗205社のヒト・モノ・カネづくり—』ダイヤモンド社
- 宮本又次（1981）「老舗の特色と強み」宮本又次監修大阪商工会議所編著（1981）4～20頁。
- 宮本又郎（2010）『日本企業経営史研究—人と制度と戦略と—』有斐閣
- 宮本又郎（2015）「企業者史論」経営史学会編『経営史学の50年』日本経済評論社，62～71頁。
- 村山裕三（2008）『京都型ビジネス—独創と継続の経営術—』NHKブックス，日本放送出版会
- 長島修（2018）「1968年京都府老舗調査の意義」『立命館経営学』第56巻第6号，2018年3月，33～64頁。
- 中野卓（1978）『商家同族団の研究』上，下，未来社
- 中村哲（1991）『近代世界史像の再構成』青木書店
- 大西謙（2013）『老舗企業にみる100年の知恵』晃洋書房
- 尾脇秀和（2018）「京都扇問屋仲間と紙漉兄頭部一扇地紙をめぐる「由緒」と“渡世相互”」『日本史研究』第669号，2018年5月，30～59頁。
- 立命館大学人文科学研究所編（1957）『家業—京都室町織物問屋の研究—』特集『立命館大学人文科学研究所紀要』第5号，1～474頁。
- 立命館大学人文科学研究所編（1959）『京菓子における家業』特集『立命館大学人文科学研究所紀要』第7号
- 沢井実（2015）「企業者史研究の課題」『企業家研究』第12号，2015年12月，1～14頁。
- 柴孝夫，日夏嘉寿雄，柿野鉄吾（2000）「京都と京都企業」日夏嘉寿雄，今口忠政編著（2000），3～33頁。
- 清水剛（1999）「戦後日本における企業の「寿命」」『経営史学』第34巻第2号，1～21頁。
- 谷本雅之「小経営の展開」経営史学会編（2015），23～32頁。
- 帝国データバンク史料館・産業調査部（2009）『百年続く企業の条件—老舗は変化を恐れない』朝日新書，朝日新聞出版
- 谷本雅之（1998）『日本における在来的経済発展と織物業』名古屋大学出版会
- 塚原伸治（2014）『老舗の伝統と＜近代＞』吉川弘文館
- 鶴岡公幸（2012）『老舗—時代を超えて愛される秘密—』産業能率大学出版部
- 山田幸三（2013）『伝統産地の経営学』有斐閣
- 安岡重明編著（1998）『京都企業家の伝統と革新』同文館
- 安岡重明（1998）「革新的企業家についての展望」安岡重明編著1998，223～229頁。
- 横沢利昌（2012）『老舗企業の研究』生産性出版

## The Study of the Shinise (Old- Established Companies) Investigations of Kyoto Pref.

Osamu Nagashima \*

### Abstract

In 1968, 1985 and 1986, Kyoto Pref. investigated Shinise (old-established companies), which had passed more than 100 years since the companies were established in Kyoto Pref. and continued their business, in order to award them. The three investigations were carried out on the basis of the same standard without repetition of sampling. If we unify their results, the companies which had established in the last days of Tokugawa shogunate occupied the most ratio. According to the result, the companies which had established in the Meiji era, though the time range of the investigation was short, occupied the second ratio. Many of them were small, under 10 employees. In proportion to the scale of companies in Kyoto city, their appearance rate increased and the companies in Kyoto city specialized old-established companies. Many of them concentrated on Kamigyo Nakagyo and Shimogyo wards. They were divided into three types: the type of the local area market-oriented companies supplying the traditional goods (A1), the type of the nationwide market-oriented companies supplying the traditional goods (A2), the type of the nationwide market-oriented companies supplying the modern goods (B2). The scale of A1 type companies was small and they were most of old-established companies of Kyoto city.

### Keywords:

Business history   Kyoto enterprise   Kyoto local economy

Old-established company   Small and medium-scale enterprise   Traditional industry

---

\* Emeritus professor, Ritsumeikan University